



# SnapManager for Oracle のコマンドリファレンスを参照してください SnapManager Oracle

NetApp  
November 04, 2025

# 目次

SnapManager for Oracle のコマンドリファレンスを参照してください	1
smo _server restart コマンド	1
構文	1
パラメータ	2
コマンドの例	2
smo _server start コマンド	2
構文	2
パラメータ	2
コマンドの例	2
smo _server status コマンド	3
構文	3
パラメータ	3
例	3
smo _server stop コマンド	3
構文	3
パラメータ	3
コマンドの例	4
smo backup create コマンド	4
構文	4
パラメータ	5
コマンドの例	7
smo backup delete コマンド	8
構文	8
パラメータ	8
例	9
smo backup free コマンド	9
構文	10
パラメータ	10
例	11
smo backup list コマンド	11
構文	11
パラメータ	11
例	12
smo backup mount コマンド	12
構文	12
パラメータ	12
例	13
smo backup restore コマンド	14
構文	14

パラメータ .....	15
例 .....	17
smo backup show コマンド .....	17
構文 .....	18
パラメータ .....	18
例 .....	18
smo backup unmount コマンドを使用します .....	19
構文 .....	20
パラメータ .....	20
例 .....	21
smo backup update コマンド .....	21
構文 .....	21
パラメータ .....	22
例 .....	22
smo backup verify コマンド .....	23
構文 .....	23
パラメータ .....	23
例 .....	24
smo clone create コマンド .....	24
構文 .....	24
パラメータ .....	25
例 .....	27
smo clone delete コマンド .....	28
構文 .....	28
パラメータ .....	28
例 .....	29
smo clone list コマンド .....	29
構文 .....	30
パラメータ .....	30
コマンドの例 .....	30
smo clone show コマンド .....	30
構文 .....	31
パラメータ .....	31
例 .....	31
smo clone template コマンド .....	32
構文 .....	32
パラメータ .....	32
コマンドの例 .....	33
smo clone update コマンド .....	33
構文 .....	33
パラメータ .....	34

コマンドの例	34
smo clone detach コマンド	34
構文	34
パラメータ	35
例	35
smo cmdfile コマンド	35
構文	35
パラメータ	35
smo credential clear コマンド	36
構文	36
パラメータ	36
コマンドの例	36
smo credential delete コマンド	36
構文	36
パラメータ	37
コマンドの例	38
smo credential list コマンド	38
構文	39
パラメータ	39
コマンドの例	39
smo credential set コマンドです	40
構文	40
パラメータ	40
リポジトリクレデンシャルを設定するコマンドの例	41
ホストクレデンシャルを設定するためのコマンドの例	41
smo history list コマンド	42
構文	42
パラメータ	42
コマンドの例	43
smo history operation-show コマンド	43
構文	43
パラメータ	44
コマンドの例	44
smo history purge コマンド	44
構文	44
パラメータ	45
コマンドの例	45
smo history remove コマンド	46
構文	46
パラメータ	46
コマンドの例	47

smo history set コマンド	47
構文	47
パラメータ	48
コマンドの例	49
smo history show コマンド	49
構文	49
パラメータ	49
コマンドの例	49
smo help コマンド	49
構文	50
パラメータ	50
smo notification remove-summary-notification コマンド	50
構文	50
パラメータ	51
smo notification update-summary-notification コマンド	52
構文	52
パラメータ	52
例	53
smo notification set コマンド	53
構文	54
パラメータ	54
例	55
smo operation dump コマンド	55
構文	55
パラメータ	55
例	56
smo operation list コマンド	56
構文	56
パラメータ	57
コマンドの例	57
smo operation show コマンド	58
構文	58
パラメータ	58
例	58
smo password reset コマンド	59
構文	59
パラメータ	60
smo profile create コマンド	60
構文	60
パラメータ	61
例	65

smo profile delete コマンド	65
構文	65
パラメータ	65
例	66
smo profile dump コマンド	66
構文	66
パラメータ	66
例	67
smo profile list コマンド	67
構文	67
パラメータ	67
コマンドの例	67
smo profile show コマンド	68
構文	69
パラメータ	69
smo profile sync コマンド	69
構文	69
パラメータ	69
コマンドの例	70
smo profile update コマンド	70
構文	70
パラメータ	72
例	75
smo profile verify コマンド	75
構文	75
パラメータ	76
例	76
smo repository create コマンド	77
構文	77
パラメータ	78
コマンド例	79
smo repository delete コマンド	79
構文	79
パラメータ	79
コマンド例	80
smo repository rollback コマンド	81
構文	81
パラメータ	81
コマンドの例	82
smo repository rollingupgrade コマンドは、次のようになります	83
構文	83

パラメータ	83
コマンドの例	84
smo repository show コマンド	84
構文	84
パラメータ	84
コマンド例	85
smo repository update コマンド	86
構文	86
パラメータ	86
コマンドの例	87
smo schedule create コマンド	87
構文	88
パラメータ	88
smo schedule delete コマンド	92
構文	92
パラメータ	92
smo schedule list コマンド	92
構文	92
パラメータ	92
smo schedule resume コマンド	93
構文	93
パラメータ	93
smo schedule suspend コマンド	93
構文	93
パラメータ	93
smo schedule update コマンド	94
構文	94
パラメータ	94
smo storage list コマンド	95
構文	95
パラメータ	95
例	95
smo storage rename コマンド	96
構文	96
パラメータ	96
例	97
smo system dump コマンド	97
構文	97
パラメータ	97
system dump コマンドの例	97
smo system verify コマンド	97

構文 .....	97
パラメータ .....	98
system verify コマンドの例 .....	98
sno version コマンド .....	98
構文 .....	98
パラメータ .....	98
version コマンドの例 .....	99

# SnapManager for Oracle のコマンドリファレンスを参照してください

SnapManager コマンドリファレンスには、コマンドとともに指定する有効な使用構文、オプション、パラメータ、および引数と例が記載されています。

コマンドの使用に関しては、次の問題があります。

- コマンドでは大文字と小文字が区別されます。
- SnapManager で使用できる文字数は最大 200 文字で、ラベルの文字数は最大 80 文字です。
- ホスト上のシェルでコマンド・ラインに表示できる文字数が制限されている場合は、`cmdfile` コマンドを使用してください。
- プロファイル名またはラベル名にはスペースを使用しないでください。
- クローン仕様では、クローンの場所にスペースを使用しないでください。

SnapManager では、次の 3 つのレベルのメッセージをコンソールに表示できます。

- エラーメッセージ
- 警告メッセージ
- 情報メッセージ

メッセージの表示方法を指定できます。何も指定しない場合、SnapManager はエラーメッセージと警告のみをコンソールに表示します。SnapManager がコンソールに表示する出力量を制御するには、次のいずれかのコマンドラインオプションを使用します。

- `-quiet` : エラー・メッセージのみをコンソールに表示します。
- `-verbose` : エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。



デフォルトの動作や、表示用に指定した詳細レベルに関係なく、SnapManager は常にすべてのメッセージタイプをログファイルに書き込みます。

## smo\_server restart コマンド

このコマンドは、SnapManager ホストサーバを再起動し、`root` として入力します。

### 構文

```
smo_server restart  
[-quiet | -verbose]
```

## パラメータ

- \* - Quiet \*

エラー・メッセージのみがコンソールに表示されるように指定します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されるように指定します。

## コマンドの例

次に、ホスト・サーバを再起動する例を示します。

```
smo_server restart
```

## smo\_server start コマンド

このコマンドは、SnapManager for Oracle ソフトウェアが稼働しているホスト・サーバを起動します。

## 構文

```
smo_server start  
\[ -quiet \| -verbose \]
```

## パラメータ

- \* - Quiet \*

エラー・メッセージのみがコンソールに表示されるように指定します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されるように指定します。

## コマンドの例

次に、ホスト・サーバを起動する例を示します。

```
smo_server start  
SMO-17100: SnapManager Server started on secure port 25204 with PID 11250
```

## smo\_server status コマンド

smo\_server status コマンドを実行すると、SnapManager ホスト・サーバのステータスを表示できます。

### 構文

```
smo_server status  
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* - Quiet \*

エラー・メッセージのみがコンソールに表示されるように指定します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されるように指定します。

### 例

次の例は、ホストサーバのステータスを表示します。

```
smo_server status  
SMO-17104: SnapManager Server version 3.3.1 is running on secure port  
25204 with PID 11250  
and has 0 operations in progress.
```

## smo\_server stop コマンド

このコマンドは、SnapManager ホスト・サーバを停止し、ルートに入力します。

### 構文

```
smo_server stop  
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* - Quiet \*

エラー・メッセージのみがコンソールに表示されるように指定します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されるように指定します。

## コマンドの例

次に、smo\_server stop コマンドの使用例を示します。

```
smo_server stop
```

## smo backup create コマンド

backup create コマンドを実行すると、1つ以上のストレージシステム上にデータベースバックアップを作成できます。

### 構文



このコマンドを実行する前に、profile create コマンドを使用してデータベースプロファイルを作成する必要があります。

```
smo backup create
-profile profile_name
\[-full\{-auto \| -online \| -offline\}\]\[-retain \{-hourly \| -daily \|
-weekly \| -monthly \| -unlimited\} \[-verify\] |
\[-data \[\[-files files \[files\]\] \|
\[-tablespaces tablespaces \[tablespaces\]\] \[-label label\] \{-auto \|
-online \| -offline\}
\[-retain \{-hourly \| -daily \| -weekly \| -monthly \| -unlimited\} \[-
verify\] |
\[-archivelogs \[-label label\]\] \[-comment comment\]\}

\[-backup-dest path1 \[ , path2\]\]
\[-exclude-dest path1 \[ , path2\]\]
\[-prunelogs \{-all \| -until-scn until-scn \| -until-date yyyy-MM-
dd:HH:mm:ss\} \| -before \{-months \| -days \| -weeks \| -hours\}\}
-prune-dest prune_dest1,\[prune_dest2\]\]
\[-taskspec taskspec\]
\[-dump\]
-force
\[-quiet \| -verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

バックアップするデータベースに関連するプロファイルの名前を指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* - auto オプション \*

データベースがマウント済み状態またはオフライン状態の場合、SnapManager はオフラインバックアップを実行します。データベースが OPEN または ONLINE 状態の場合、SnapManager はオンライン・バックアップを実行します。force オプションを -offline オプションと指定すると、データベースが現在オンラインである場合でも、SnapManager によってオフライン・バックアップが強制的に実行されます。

- \* - オンラインオプション \*

オンライン・データベース・バックアップを指定します。

- ローカルインスタンスがシャットダウン状態で、少なくとも 1 つのインスタンスがオープン状態の場合は、-force オプションを使用して、ローカルインスタンスを MOUNTED 状態に変更できます。
- オープン状態のインスタンスがない場合は、-force オプションを使用して、ローカルインスタンスをオープン状態に変更できます。

- \* -offline オプション \*

データベースがシャットダウン状態のときに、オフラインバックアップを実行するように指定します。データベースが OPEN または MOUNTED の場合には、バックアップは失敗します。force オプションを使用した場合、SnapManager はデータベースの状態を変更し、オフライン・バックアップのためにデータベースをシャットダウンしようとします。

- \* - フルオプション \*

データベース全体がバックアップされます。これには、すべてのデータ、アーカイブログ、および制御ファイルが含まれます。アーカイブ REDO ログおよび制御ファイルは、実行するバックアップのタイプに関係なくバックアップされます。データベースの一部だけをバックアップする場合は、-files オプションまたは -tablespaces オプションを使用します。

- \* -data\* オプション \*

データファイルを指定します。

- \* - ファイルリスト \*

指定されたデータファイル、およびアーカイブされたログファイルと制御ファイルのみをバックアップします。ファイル名のリストはスペースで区切ります。データベースが OPEN 状態の場合、SnapManager は該当する表領域がオンライン・バックアップ・モードになっているかどうかを確認します。

- \* - 表領域 \*

指定されたデータベースの表領域、およびアーカイブされたログファイルと制御ファイルのみをバックアップします。表領域名はスペースで区切ります。データベースが OPEN 状態の場合、SnapManager は該当する表領域がオンライン・バックアップ・モードになっているかどうかを確認します。

• \* -ラベルラベル \*

このバックアップのオプション名を指定します。この名前はプロファイル内で一意である必要があります。名前には、アルファベット、数字、アンダースコア ( \_ )、およびハイフン ( - ) を使用できます。1文字目をハイフンにすることはできません。ラベルを指定しない場合、SnapManager は scope\_type\_date 形式でデフォルトのラベルを作成します。

- 範囲は F でフル・バックアップを示し 'P' ではパーシャル・バックアップを示します
- type は、オフライン (コールド) バックアップを示す C、オンライン (ホット) バックアップを示す H、または自動バックアップを示す A です (例: P\_A\_20081010060037IST)。
- date は、バックアップを作成した年月日、および時刻です。

SnapManager は 24 時間方式のクロックを使用します。

たとえば、2007 年 1 月 16 日の午後 5 時 45 分 16 分にデータベースをオフラインにしてフルバックアップを実行したとします東部標準時、SnapManager はラベル F\_C\_20070116174516EST を作成します。

• \* -comment string\*

このバックアップに関するコメントを指定します。文字列は一重引用符 ( ' ) で囲みます。



一部のシェルでは、引用符が除去されます。この場合は、引用符にバックスラッシュ ( \ ) を含める必要があります。たとえば、次のように入力する必要があります。「\」これはコメントです。

• \* -verify オプション \*

Oracle の dbv ユーティリティを実行して、バックアップ内のファイルが破損していないかどうかを検証されます。



verify オプションを指定した場合、検証処理が完了するまで、バックアップ処理は完了しません。

• \* -force オプション \*

データベースが正しい状態でない場合に、状態を強制的に変更します。たとえば、指定したバックアップのタイプおよびデータベースの状態に基づいて、SnapManager によってデータベースの状態がオンラインからオフラインに変更されることがあります。

- ローカルインスタンスがシャットダウン状態で、少なくとも 1 つのインスタンスが OPEN 状態の場合に、-force オプションを使用すると、ローカルインスタンスが MOUNTED 状態に変更されます。
- OPEN 状態のインスタンスがない場合に、-force オプションを使用すると、ローカル・インスタンスが OPEN 状態に変更されます。

• \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

• \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

- \* - { -hourly | -daily | -weekly | -monthly | -unlimited } \* を保持できます

バックアップを時間単位、日単位、週単位、月単位、または無制限単位で保持するかどうかを指定します。retain オプションが指定されていない場合、保存クラスはデフォルトで -hourly オプションに設定されます。バックアップを無期限に保持するには、-unlimited オプションを使用します。unlimited オプションを指定すると、バックアップは保持ポリシーで削除できなくなります。

- \*-archivelogs オプション \*

アーカイブログバックアップを作成します。

- **-backup-dest path1**、**[,path2]**

アーカイブログバックアップ用にバックアップするアーカイブログのデスティネーションを指定します。

- **-exclude-dest path1[,path2]**

バックアップから除外するアーカイブログの送信先を指定します。

- \*-prunelogs {-all|-until -scnuntil -scnuntil -dateyyyy-md-dd : HH : mm : ss | -before { -months | -days | -weeks | -hours } } \*

バックアップの作成時に指定したオプションに基づいて、アーカイブログデスティネーションからアーカイブログファイルを削除します。all オプションを指定すると、アーカイブログのデスティネーションからすべてのアーカイブログファイルが削除されます。until SCN オプションを使用すると、指定した System Change Number (SCN) までアーカイブログファイルが削除されます。until date オプションを使用すると、指定した期間が経過するまでアーカイブ・ログ・ファイルが削除されます。before オプションを指定すると、指定した期間（日、月、週、時間）前のアーカイブログファイルが削除されます。

- \*-prune-dest prune\_dest1、prune\_dest2 \*

バックアップの作成時に、アーカイブログデスティネーションからアーカイブログファイルを削除します。

- \*-taskspec taskspec \*

バックアップ処理の前処理アクティビティまたは後処理アクティビティに使用できるタスク仕様 XML ファイルを指定します。taskspec オプションを指定するときに、XML ファイルの完全なパスを指定する必要があります。

- \* -dump オプション \*

データベースバックアップ処理が成功したか失敗したあとにダンプファイルを収集します。

## コマンドの例

次のコマンドでは、フルオンラインバックアップを作成し、セカンダリストレージにバックアップを作成して、保持ポリシーを daily に設定します。

```
smo backup create -profile SALES1 -full -online
-label full_backup_sales_May -profile SALESDB -force -retain -daily
Operation Id [8abc01ec0e79356d010e793581f70001] succeeded.
```

- 関連情報 \*

[データベースバックアップを作成しています](#)

[smo profile create コマンド](#)

## smo backup delete コマンド

backup delete コマンドを実行すると、クローン作成に使用したバックアップや失敗したバックアップなど、自動的に削除されないバックアップを削除できます。保持するバックアップは、保持クラスを変更することなく、無制限に削除できます。

### 構文

```
smo backup delete
-profile profile_name
[-label label \[-data \|-archivelogs\] \|\ \[-id guid \|-all\]]
-force
\[-dump\]
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

削除するバックアップに関連付けられたデータベースを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- -id GUID

指定した GUID を持つバックアップを指定します。GUID はバックアップを作成するときに SnapManager によって生成されます。各バックアップの GUID を表示する場合は、smo backup list コマンドを使用します。

- \* -ラベルラベル \*

指定したラベルを持つバックアップを指定します。必要に応じて、バックアップの範囲をデータファイルまたはアーカイブログとして指定します。

- -data

データファイルを指定します。

- **-archivelogs**

アーカイブログファイルを指定します。

- **\* -すべて \***

すべてのバックアップを指定します。指定したバックアップだけを削除するには、`-id` または `-label` オプションを使用します。

- **\* -dump\***

バックアップの削除処理が成功したか失敗したあとにダンプファイルを収集します。

- **\* -force \***

バックアップを強制的に削除します。バックアップに関連付けられたリソースを解放する際に問題が発生した場合も、SnapManager はバックアップを削除します。たとえば、バックアップが Oracle Recovery Manager (RMAN) でカタログ化されていても、RMAN データベースが存在しない場合、`-force` を指定すると指定すると、RMAN に接続できない場合でもバックアップが削除されます。

- **\* - Quiet \***

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- **\* -verbose \***

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次の例は、バックアップを削除します。

```
smo backup delete -profile SALES1 -label full_backup_sales_May
Operation Id [8abc01ec0e79004b010e79006da60001] succeeded.
```

- **関連情報 \***

[バックアップを削除する](#)

[smo profile create コマンド](#)

[smo profile update コマンド](#)

## smo backup free コマンド

バックアップメタデータをリポジトリから削除せずにバックアップの Snapshot コピーを解放するには、`backup free` コマンドを実行します。

## 構文

```
smo backup free
-profile profile_name
[-label label \[-data \|-archivelogs\] \|\ \[-id guid \|-all\]]
-force
\[-dump\]
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

解放するバックアップに関連付けられたプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- **-id GUID**

指定した GUID を持つバックアップのリソースを指定します。GUID はバックアップを作成するときに SnapManager によって生成されます。各バックアップの GUID を表示する場合は、smo backup list コマンドを使用します。verbose オプションを指定して、バックアップ ID を表示します。

- \* - ラベルラベル \*

指定したラベルを持つバックアップを指定します。

- **-data**

データファイルを指定します。

- **-archivelogs**

アーカイブログファイルを指定します。

- \* - すべて \*

すべてのバックアップを指定します。代わりに、指定されたバックアップを削除するには、-id または -label オプションを使用します。

- \* -force \*

Snapshot コピーを強制的に削除します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、バックアップを解放する例を示します。

```
smo backup free -profile SALES1 -label full_backup_sales_May
Operation Id [8abc01ec0e79004b010e79006da60001] succeeded.
```

- 関連情報 \*

### バックアップの解放

## smo backup list コマンド

backup list コマンドを実行すると、保持クラスや保護ステータスに関する情報など、プロファイル内のバックアップに関する情報を表示できます。

### 構文

```
smo backup list
-profile profile_name
-delimiter character
[-data | -archivelogs | -all]
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

バックアップをリスト表示するプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* - 区切り文字 \*

各行を別々の行に表示します。行の属性は、指定された文字で区切られます。

- **-data**

データファイルを指定します。

- **-archivelogs**

アーカイブログファイルを指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。verbose オプションを指定して、バックアップ ID を表示します。

## 例

次に、プロファイル SALES1 のバックアップをリスト表示する例を示します。

```
smo backup list -profile SALES1 -verbose
Start Date           Status  Scope  Mode    Primary  Label      Retention
Protection
-----
-----
2007-08-10 14:12:31 SUCCESS FULL    ONLINE  EXISTS   backup2    HOURLY
NOT REQUESTED
2007-08-05 12:08:37 SUCCESS FULL    ONLINE  EXISTS   backup4    UNLIMITED
NOT REQUESTED
2007-08-04 22:03:09 SUCCESS FULL    ONLINE  EXISTS   backup6    UNLIMITED
NOT REQUESTED
```

- 関連情報 \*

[バックアップのリストを表示します](#)

## smo backup mount コマンド

外部ツールを使用してリカバリ処理を実行するには、backup mount コマンドを実行してバックアップをマウントします。

## 構文

```
smo backup mount
-profile profile_name
[-label label \[-data \ | -archivelogs\] \ | \[-id id\]]
[-host host]

\[-dump\]
[-quiet | -verbose]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

マウントするバックアップに関連付けられたプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- **-id GUID**

指定した GUID を持つバックアップをマウントします。GUID はバックアップを作成するときに SnapManager によって生成されます。各バックアップの GUID を表示する場合は、`smo backup list` コマンドを使用します。

- \* - ラベルラベル \*

指定したラベルを持つバックアップをマウントします。

- **-data**

データファイルを指定します。

- **-archivelogs**

アーカイブログファイルを指定します。

- \* - ホストホストホスト \*

バックアップをマウントするホストを指定します。

- \* **-dump\***

マウント処理が成功したか失敗したあとにダンプファイルを収集します。

- \* **- Quiet \***

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルト設定では、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* **-verbose \***

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。



このコマンドは、Oracle Recovery Manager (RMAN) などの外部ツールを使用する場合にのみ使用する必要があります。smo backup restore コマンドを使用してバックアップをリストアする場合は、バックアップのマウントが SnapManager によって自動的に処理されます。このコマンドを実行すると、Snapshot コピーがマウントされているパスのリストが表示されます。このリストは、-verbose オプションを指定した場合のみ表示されます。

## 例

次に、バックアップをマウントする例を示します。

```
smo backup mount -profile SALES1 -label full_backup_sales_May -verbose
[INFO ]: SMO-13051: Process PID=6852
[INFO ]: SMO-13036: Starting operation Backup Mount on host
hadley.domain.private
[INFO ]: SMO-13036: Starting operation Backup Mount on host
hadley.domain.private
[INFO ]: SMO-13046: Operation GUID 8abc01573883daf0013883daf5ac0001
starting on Profile FAS_P1
[INFO ]: SD-00025: Beginning to connect filesystem(s) [I:\] from snapshot
smo_fas_p1_fasdb_d_h_2_8abc0157388344bc01388344c2d50001_0.
[INFO ]: SD-00016: Discovering storage resources for
C:\SnapManager_auto_mounts\I-2012071400592328_0.
[INFO ]: SD-00017: Finished storage discovery for
C:\SnapManager_auto_mounts\I-2012071400592328_0
[INFO ]: SD-00026: Finished connecting filesystem(s) [I:\] from snapshot
smo_fas_p1_fasdb_d_h_2_8abc0157388344bc01388344c2d50001_0.
[INFO ]: SD-00025: Beginning to connect filesystem(s) [H:\] from snapshot
smo_fas_p1_fasdb_d_h_1_8abc0157388344bc01388344c2d50001_0.
[INFO ]: SD-00016: Discovering storage resources for
C:\SnapManager_auto_mounts\H-2012071400592312_0.
[INFO ]: SD-00017: Finished storage discovery for
C:\SnapManager_auto_mounts\H-2012071400592312_0.
[INFO ]: SD-00026: Finished connecting filesystem(s) [H:\] from snapshot
smo_fas_p1_fasdb_d_h_1_8abc0157388344bc01388344c2d50001_0.
[INFO ]: SMO-13048: Backup Mount Operation Status: SUCCESS
[INFO ]: SMO-13049: Elapsed Time: 0:19:05.620
```

• 関連情報 \*

[バックアップのマウント](#)

## smo backup restore コマンド

backup restore コマンドを実行してデータベースまたはデータベースの一部のバックアップをリストアし、必要に応じてデータベース情報をリカバリすることができます。

構文

```

    smo backup restore
-profile profile_name
\[-label label \|-id id\]
\[-files files \[files...\] \|-
-tablespaces tablespaces \[tablespaces...\]\] \|-
-complete \|-controlfiles\]
\[-recover \{-alllogs \|-nologs \|-until until\} \[-using-backup-
controlfile\] \]
\[-restorespec restorespec \|\|\]
\[-preview\]

\[-recover-from-location path1 \[, path2\]\]
\[-taskspec taskspec\]
\[-dump\]
\[-force\]
\[-quiet \|-verbose\]

```

## パラメータ

- **\* -profile profile\_name \***

リストアするデータベースを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- **\* -ラベル名 \***

指定したラベルを持つバックアップをリストアします。

- **-id GUID**

指定した GUID を持つバックアップをリストアします。GUID はバックアップを作成するときに SnapManager によって生成されます。各バックアップの GUID を表示する場合は、smo backup list コマンドを使用します。

- **\* すべてのファイルまたは指定されたファイルを選択 \***

必要に応じて、次のいずれかのオプションを使用できます。

- **-complete** : バックアップ内のすべてのデータ・ファイルをリストアします。

- **-tablespaceslist** : 指定した表領域のみをバックアップからリストアします。

リスト内で名前を区切るには、スペースを使用する必要があります。

- **-fileslist** : 指定したデータ・ファイルだけをバックアップからリストアします。

リスト内で名前を区切るには、スペースを使用する必要があります。データベースが稼働している場合、SnapManager はファイルを含む表領域がオフラインであることを確認します。

- \*-controlfiles \*

制御ファイルをリストアします。SnapManager では、バックアップ内のデータ・ファイルと制御ファイルを一度にリストアできます。controlfiles オプションは、-complete、-tablespaces、-files などのリストア範囲パラメータから独立しています。

- -recover

リストア後にデータベースをリカバリします。また、次のいずれかのオプションを使用して、SnapManager でデータベースのリカバリ・ポイントを指定する必要があります。

- -nologs : バックアップ時点までデータベースをリカバリし、ログを適用しない

このパラメータは、オンラインバックアップまたはオフラインバックアップに使用できます。

- -alllogs : データベースを最後のトランザクションまたはコミットまでリカバリし、必要なすべてのログを適用します。

- -終了日 : 指定された日時までデータベースをリカバリします。

年 - 月 - 日 : 時 : 分 : 秒 ( yyyy-mm-dd : hh : mm : ss ) の形式を使用する必要があります。データベースの設定に応じて、12 時間形式または 24 時間形式のどちらかを使用してください。

- -until scn : 指定したシステム変更番号 ( SCN ) に達するまで、データファイルをロールフォワードします。

- -use-backup-controlfile : バックアップ制御ファイルを使用してデータベースをリカバリします。

- \* -restorespec \*

元の各 Snapshot コピーがアクティブファイルシステムにマッピングされているため、データをアクティブファイルシステムにリストアし、指定したデータからリストアすることができます。オプションを指定しない場合、SnapManager はプライマリストレージ上の Snapshot コピーからデータをリストアします。次のいずれかのオプションを指定できます。

- -restorespec : リストアするデータおよびリストア形式を指定します。

- \* - プレビュー \*

次の情報を表示します。

- 各ファイルのリストアに使用するリストアメカニズム ( ストレージ側のファイルシステムのリストア、ストレージ側のファイルのリストア、またはホスト側のファイルコピーのリストア )
- 各ファイルのリストアに、より効率的なメカニズムが使用されていない理由。-preview オプションを使用している場合は -verbose オプションを指定すると、次の点を確認する必要があります。
- force オプションは、コマンドには影響しません。
- recover オプションは ' コマンドには影響しませんリストア処理をプレビューするには、データベースをマウントする必要があります。リストア計画をプレビューする際に、データベースが現在マウントされていない場合は、SnapManager によってデータベースがマウントされます。データベースをマウントできない場合、コマンドは失敗し、SnapManager はデータベースを元の状態に戻します。

preview オプションを指定すると、最大 20 個のファイルが表示されます。smo.config ファイルに表示するファイルの最大数を設定することができます。

- \* -recovery-from-location\*

アーカイブログファイルの外部アーカイブログの場所を指定します。SnapManager は外部の場所からアーカイブログファイルを取得し、リカバリプロセスに使用します。

- **-taskspec**

リストア処理の前処理アクティビティまたは後処理アクティビティのタスク仕様 XML ファイルを指定します。タスク仕様 XML ファイルの完全なパスを指定する必要があります。

- \* -dump\*

リストア処理後にダンプファイルを収集するように指定します。

- \* -force \*

必要に応じて、データベースの状態を現在の状態よりも低い状態に変更します。

デフォルトでは、SnapManager は処理中にデータベースを高いレベルの状態に変更できません。SnapManager でデータベースを高いレベルの状態に変更する場合、このオプションは必要ありません。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルト設定では、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。このオプションを使用すると、より効率的なリストアプロセスでファイルをリストアできなかった理由を確認できます。

## 例

次に、データベースおよび制御ファイルをリストアする例を示します。

```
smo backup restore -profile SALES1 -label full_backup_sales_May
-complete -controlfiles -force
```

- 関連情報 \*

[データベースバックアップのリストア](#)

[別の場所からのバックアップのリストア](#)

[リストア仕様を作成しています](#)

## smo backup show コマンド

backup show コマンドを使用すると、バックアップの保護ステータス、バックアップ保

持クラス、プライマリストレージとセカンダリストレージ上のバックアップなど、バックアップに関する詳細情報を表示できます。

## 構文

```
smo backup show
-profile profile_name
[-label label \[-data \|-archivelogs\] \|\ \[-id id\]
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- **\* -profile profile\_name \***

バックアップを表示するプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- **\* -ラベルラベル \***

バックアップのラベルを指定します。

- **-data**

データファイルを指定します。

- **-archivelogs**

アーカイブログファイルを指定します。

- **\* -id id \***

バックアップ ID を指定します。

- **\* - Quiet \***

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- **\* -verbose \***

クローンおよび検証情報のほかに、エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、バックアップの詳細情報の例を示します。

```
smo backup show -profile SALES1 -label BTNFS -verbose
Backup id: 8abc013111a450480111a45066210001
Backup status: SUCCESS
Primary storage resources: EXISTS
Protection sate: NOT REQUESTED
Retention class: DAILY
Backup scope: FULL
Backup mode: OFFLINE
Mount status: NOT MOUNTED
Backup label: BTNFS
Backup comment:
RMAN Tag: SMO_BTNFS_1175283108815
Backup start time: 2007-03-30 15:26:30
Backup end time: 2007-03-30 15:34:13
Verification status: OK
Backup Retention Policy: NORMAL
Backup database: hsd1
Checkpoint: 2700620
Tablespace: SYSAUX
Datafile: E:\disks\data\sysaux01.dbf [ONLINE]
...
Control Files:
File: E:\disks\data\control03.ctl
...
Archive Logs:
File: E:\disks\data\archive_logs\2_131_626174106.dbf
...
Host: Host1
File: E:\disks\data\hsdb\SMOBakCtl_1175283005231_0
...
Volume: hs_data
Snapshot: SMO_HSDBR_hsd1_F_C_1_
8abc013111a450480111a45066210001_0
File: E:\disks\data\hsdb\SMOBakCtl_1175283005231_0
...
```

• 関連情報 \*

[バックアップの詳細を表示しています](#)

## smo backup unmount コマンドを使用します

backup unmount コマンドを実行して、バックアップをアンマウントできます。

## 構文

```
smo backup unmount
-profile profile_name
[-label label \[-data \|-archivelogs\] \|\ \[-id id\]
\[-force\]
\[-dump\]
\[-quiet \|\ -verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

バックアップをアンマウントするプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* -id id \*

指定した GUID を持つバックアップをアンマウントします。GUID はバックアップを作成するときに SnapManager によって生成されます。各バックアップの GUID を表示する場合は、smo backup list コマンドを使用します。

- \* -ラベルラベル \*

指定したラベルを持つバックアップをアンマウントします。

- **-data**

データファイルを指定します。

- **-archivelogs**

アーカイブログファイルを指定します。

- \* -dump\*

アンマウント処理が成功または失敗したあとにダンプファイルを収集します。

- \* -force \*

バックアップに関連付けられたリソースを解放する際に問題が発生した場合も、バックアップをアンマウントします。SnapManager がバックアップをアンマウントし、関連付けられているすべてのリソースをクリーンアップします。ログにアンマウント処理が正常に完了したことが記録されていますが、ログにエラーがある場合は、リソースを手動でクリーンアップしなければならないことがあります。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、アンマウント処理の例を示します。

```
# smo backup unmount -label test -profile SALES1 -verbose
```

```
[INFO ]: SMO-13051: Process PID=9788
[INFO ]: SMO-13036: Starting operation Backup Unmount on host
hadley.domain.private
[INFO ]: SMO-13036: Starting operation Backup Unmount on host
hadley.domain.private
[INFO ]: SMO-13046: Operation GUID 8abc015738849a3d0138849a43900001
starting on Profile FAS_P1
[INFO ]: SD-00031: Beginning to disconnect filesystem(s)
[C:\SnapManager_auto_mounts\H-2012071400592312_0,
C:\SnapManager_auto_mounts\I-2012071400592328_0].
[INFO ]: SD-00032: Finished disconnecting filesystem(s)
[C:\SnapManager_auto_mounts\H-2012071400592312_0,
C:\SnapManager_auto_mounts\I-2012071400592328_0].
[INFO ]: SMO-13048: Backup Unmount Operation Status: SUCCESS
[INFO ]: SMO-13049: Elapsed Time: 0:07:26.754
```

- 関連情報 \*

### バックアップのアンマウント

## smo backup update コマンド

バックアップ保持ポリシーは、 backup update コマンドを実行して更新できます。

### 構文

```
smo backup update
-profile profile_name
[-label label \[-data \| -archivelogs\] \| \[-id guid\]
\[-retain \{-hourly \| -daily \| -weekly \| -monthly \| -unlimited\}\]
\[-comment comment_text\]
[-quiet | -verbose]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

バックアップを更新するプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- **-id GUID**

指定した GUID を持つバックアップを検証します。GUID はバックアップを作成するときに SnapManager によって生成されます。各バックアップの GUID を表示する場合は、smo backup list コマンドを使用します。

- \* - ラベルラベル \*

バックアップのラベルと範囲をデータファイルまたはアーカイブログとして指定します。

- **-data**

データファイルを指定します。

- **-archivelogs**

アーカイブログファイルを指定します。

- \* -comment comment\_text \*

バックアップの更新に関するテキスト（最大 200 文字）を入力します。スペースを含めることができます。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

- \* - { -hourly | -daily | -weekly | -monthly | -unlimited } \* を保持できます

バックアップを時間単位、日単位、週単位、月単位、または無制限単位で保持するかどうかを指定します。retain を指定しない場合、保持クラスはデフォルトで -hourly に設定されます。バックアップを無期限に保持するには、-unlimited オプションを使用します。unlimited オプションを指定すると、バックアップは削除できなくなります。

## 例

次の例では、バックアップを更新して保持ポリシーを unlimited に設定しています。

```
smo backup update -profile SALES1 -label full_backup_sales_May
-retain -unlimited -comment save_forever_monthly_backup
```

- 関連情報 \*

[バックアップ保持ポリシーを変更する](#)

[バックアップを無期限に保持](#)

[保持ポリシー適用除外バックアップの解放または削除](#)

## smo backup verify コマンド

backup verify コマンドを実行して、バックアップが Oracle で有効な形式になっているかどうかを確認できます。

### 構文

```
smo backup verify
-profile profile_name
[-label backup_name \| \[-id guid\]
\[-retain \{-hourly \| -daily \| -weekly \| -monthly \| -unlimited\}\}
\[-force\]
\[-dump\]
\[-quiet \| -verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

バックアップを検証するプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- -id GUID

指定した GUID を持つバックアップを検証します。GUID はバックアップを作成するときに SnapManager によって生成されます。各バックアップの GUID を表示する場合は、smo backup list コマンドを使用します。

- \* -label label\_name \*

指定したラベルを持つバックアップを検証します。

- \* -dump\*

バックアップの検証処理が成功したか失敗した場合に、ダンプファイルを収集します。

- \* -force \*

検証処理を実行するために必要な状態にデータベースを強制的に移行します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、バックアップ検証の例を示します。

```
smo backup verify -profile SALES1 -label full_backup_sales_May -quiet
```

```
DBVERIFY - Verification starting : FILE = C:\SnapManager_auto_mounts\H-  
2012071400592312_0\smo\datafile\data
```

- 関連情報 \*

[データベースのバックアップの検証](#)

## smo clone create コマンド

clone create コマンドを実行して、バックアップされたデータベースのクローンを作成できます。バックアップはプライマリストレージまたはセカンダリストレージからクローニングできます。

## 構文

```

    smo clone create
-profile profile_name
[-backup-id backup_guid \|-backup-label backup_label_name \|-current\]
-newsid new_sid
\[-host target_host\]
[-label clone_label]
\[-comment string\]
-clonespec full_path_to_clonespec_file
]
\[-syspassword syspassword\]
\[-reserve \{yes \| no \| inherit\}\]

\[-no-resetlogs \|-recover-from-location path1 \[, path2\]\]\[-taskspec
taskspec\]
\[-dump\]
\[-quiet \|-verbose\]

```

## パラメータ

- \*- プロファイル名 \*

クローニングするデータベースを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \*-backup-id GUID\*

指定した GUID を持つバックアップをクローニングします。GUID はバックアップを作成するときに SnapManager によって生成されます。各バックアップの GUID を表示する場合は、`smo backup list -verbose` コマンドを使用します。

- \*-backup-label backup\_label\_name \*

指定したラベル名を持つバックアップをクローニングするように指定します。

- \*- 現在 \*

データベースの現在の状態からバックアップおよびクローンを作成するように指定します。



データベースが NOARCHIVELOG モードになっている場合、SnapManager はオフラインバックアップを作成します。

- \*-newsid new\_sid \*

クローニングされたデータベースに新しい一意の Oracle システム識別子を指定します。システム ID の値は 8 文字以内で指定します。Oracle では、同じホスト上で同じシステム識別子を持つ 2 つのデータベースを同時に実行することはできません。

- \*-host target\_host \*

クローンを作成するホストを指定します。

- `* -label clone_label *`

クローンのラベルを指定します。

- `* -comment string*`

このクローンについて説明するオプションのコメントを指定します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。



一部のシェルでは引用符が削除されます。ご使用のシェルに当てはまる場合は、引用符をバックスラッシュ (\) でエスケープする必要があります。たとえば、次のように入力する必要があります。「`This is a comment\`」

- `* -clonespec full_path_to_clonespec_file *`

クローン仕様 XML ファイルのパスを指定します。相対パス名または絶対パス名を指定できます。

- `-syspassword syspassword`

sys 特権ユーザのパスワードを指定します。



指定されたデータベースクレデンシャルが sys 特権ユーザに対して同じでない場合は、sys 特権ユーザのパスワードを指定する必要があります。

- `* -予約 *`

reserve オプションを yes に設定すると、新しいクローン・ボリュームのためのボリューム・ギャランティ・スペース・リザーベーションがオンになります。reserve オプションを no に設定すると、新しいクローン・ボリュームのためのボリューム・ギャランティ・スペース・リザーベーションがオフになります。reserve オプションを inherit に設定すると、新しいクローンは親の Snapshot コピーのスペース・リザーベーション特性を継承します。デフォルト設定は no です

次の表に、クローニング方法、およびクローン作成処理とその -reserve オプションに対する影響を示します。LUN は、どちらの方法でもクローニングできます。

クローニング方法	説明	結果
LUN cloning	A new clone LUN is created within the same volume.	When the -reserve option for a LUN is set to yes, space is reserved for the full LUN size within the volume.

<p>Volume cloning</p>	<p>A new FlexClone is created, and the clone LUN exists within the new clone volume. Uses the FlexClone technology.</p>	<p>When the <code>-reserve</code> option for a volume is set to <code>yes</code>, space is reserved for the full volume size within the aggregate. [+]</p>
-----------------------	---	--

- **-no-resetlogs**

クローン作成時に `resetlogs` でデータベースを開かずに、`DBNEWID` ユーティリティを実行してデータベースのリカバリをスキップするように指定します。

- \* `-recovery-from-location*`

アーカイブログバックアップの外部アーカイブログの場所を指定します。SnapManager は外部の場所からアーカイブログファイルを取得し、クローニングに使用します。

- **-taskspec**

クローン処理の前処理アクティビティまたは後処理アクティビティのタスク仕様 XML ファイルを指定します。タスク仕様 XML ファイルの完全なパスを指定する必要があります。

- \* `-dump*`

クローン作成処理のあとにダンプファイルを収集するように指定します。

- \* `- Quiet *`

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルト設定では、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* `-verbose *`

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、このクローン用に作成されたクローン仕様を使用して、バックアップをクローニングする例を示します。

```
smo clone create -profile SALES1 -backup-label full_backup_sales_May
-newsid
CLONE -label sales1_clone -clonespec E:\\spec\\clonespec.xml
```

Operation Id [8abc01ec0e794e3f010e794e6e9b0001] succeeded.

- 関連情報 \*

[クローン仕様を作成しています](#)

[バックアップからデータベースをクローニングする](#)

## smo clone delete コマンド

クローンを削除するには、clone delete コマンドを実行します。どの処理でもクローンが使用されている場合、クローンは削除できません。

### 構文

```
smo clone delete
-profile profile_name
\[-id guid \| -label clone_name\]
[-login
\[-username db_username -password db_password -port db_port\]
]
\[-syspassword syspassword\]
-force
\[-dump\]
\[-quiet \| -verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

削除するクローンが含まれているプロファイルの名前を指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* -force \*

クローンに関連付けられたリソースがある場合も、クローンを削除します。

- **-id GUID**

削除するクローンの GUID を指定します。GUID はクローンを作成するときに SnapManager によって生成されます。各クローンの GUID を表示する場合は、smo clone list コマンドを使用します。

- \* - ラベル名 \*

削除するクローンのラベルを指定します。

- **-syspassword syspassword**

sys 特権ユーザのパスワードを指定します。



指定されたデータベースクレデンシャルが sys 特権ユーザに対して同じでない場合は、sys 特権ユーザのパスワードを指定する必要があります。

- \* -ログイン \*

データベースログインの詳細を入力できます。

- \* -username repo\_username \*

データベースへのアクセスに必要なユーザ名を指定します。

- \* -password db\_password \*

データベースへのアクセスに必要なパスワードを指定します。

- \* -port db\_port \*

プロファイルに記述されるデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -dump\*

クローンの削除処理後にダンプファイルを収集するように指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次の例は、クローンを削除します。

```
smo clone delete -profile SALES1 -label SALES_May
Operation Id [8abc01ec0e79004b010e79006da60001] succeeded.
```

## smo clone list コマンド

このコマンドでは、指定したプロファイルに対応するデータベースのクローンを表示します。

## 構文

```
smo clone list
-profile profile_name
-delimiter character
\[-quiet \| -verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

プロファイルに関連付けられたクローンのリストを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* - 区切り文字 \*

このパラメータを指定すると、各行の属性が指定した文字で区切って表示されます。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次に、プロファイル SALES1 内のデータベース・クローンをリスト表示する例を示します。

```
smo clone list -profile SALES1 -verbose
```

```
ID Status SID Host Label Comment
-----
8ab...01 SUCCESS hsdhc server1 back1clone test comment
```

- 関連情報 \*

[クローンのリストを表示しています](#)

## smo clone show コマンド

指定したプロファイルのデータベース・クローンに関する情報を表示するには、clone show コマンドを実行します。

## 構文

```
smo clone show
-profile profile_name
\[-id guid \|-label clone_name\]
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

プロファイルに関連付けられたクローンのリストを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- **-id GUID**

指定した GUID を持つクローンの情報を表示します。GUID はクローンを作成するときに SnapManager によって生成されます。各クローンの GUID を表示する場合は、smo clone show コマンドを使用します。

- \* -label label\_name \*

指定したラベルを持つクローンに関する情報を表示します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次の例は、クローンに関する情報を表示します。

```
smo clone show -profile SALES1 -label full_backup_sales_May -verbose
```

次の出力は、プライマリストレージ上のバックアップのクローンに関する情報を示しています。

```
Clone id: 8abc013111b916e30111b916ffb40001
Clone status: SUCCESS
Clone SID: hsdbc
Clone label: hsdbc
Clone comment: null
Clone start time: 2007-04-03 16:15:50
Clone end time: 2007-04-03 16:18:17
Clone host: Host1
Filesystem: E:\ssys1\data_clone\
File: E:\ssys1\data_clone\hsdb\sysaux01.dbf
File: E:\ssys1\data_clone\hsdb\undotbs01.dbf
File: E:\ssys1\data_clone\hsdb\users01.dbf
File: E:\ssys1\data_clone\hsdb\system01.dbf
File: E:\ssys1\data_clone\hsdb\undotbs02.dbf
Backup id: 8abc013111a450480111a45066210001
Backup label: full_backup_sales_May
Backup SID: hsdb1
Backup comment:
Backup start time: 2007-03-30 15:26:30
Backup end time: 2007-03-30 15:34:13
Backup host: server1
```

• 関連情報 \*

[クローンの詳細情報を表示します](#)

## smo clone template コマンド

このコマンドを使用すると、クローン仕様テンプレートを作成できます。

### 構文

```
smo clone template
-profile name
\[-backup-id guid \|-backup-label backup_name\]
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

• \*- プロファイル名 \*

クローン仕様を作成するデータベースを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* -backup-id GUID\*

指定した GUID を持つバックアップからクローン仕様を作成します。GUID はバックアップを作成するときに SnapManager によって生成されます。各バックアップの GUID を表示する場合は、smo backup list コマンドを使用します。

- \* -backup-label backup\_label\_name \*

指定したバックアップ・ラベルを持つバックアップからクローン仕様を作成します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次に、full\_backup\_sales\_May というラベルのバックアップからクローン仕様テンプレートを作成する例を示します。smo clone template コマンドが完了すると、クローン仕様テンプレートが完成します。

```
smo clone template -profile SALES1 -backup-label full_backup_sales_May
Operation Id [8abc01ec0e79004b010e79006da60001] succeeded.
```

- 関連情報 \*

[クローン仕様を作成しています](#)

[バックアップからデータベースをクローニングする](#)

## smo clone update コマンド

このコマンドは、クローンに関する情報を更新します。コメントを更新できます。

### 構文

```
smo clone update
-profile profile_name
\[-label label \|-id id\]
-comment comment_text
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

更新するクローンが含まれているプロファイルの名前を指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* -id id \*

クローンの ID を指定します。この ID は、クローンを作成するときに SnapManager によって生成されます。各クローンの ID を表示するには、smo clone list コマンドを使用します。

- \* -ラベルラベル \*

クローンのラベルを指定します。

- \* -comment\*

クローンの作成時に入力したコメントが表示されます。これはオプションパラメータです。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次に、クローンのコメントを更新する例を示します。

```
smo clone update -profile anson.pcrac5  
-label clone_pcrac51_20080820141624EDT -comment See updated clone
```

## smo clone detach コマンド

Data ONTAP の親ボリュームからクローンボリュームをスプリットしたら、SnapManager から clone detach コマンドを実行して、そのボリュームがクローンでなくなったことを SnapManager に通知できます。

### 構文

```
smo clone detach -profile profile_name -label clone_label
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

クローン作成元のプロファイルの名前を指定します。

- \* -label clone\_label \*

クローニング処理で生成される名前を示します。

## 例

次のコマンドは、クローンを切断します。

```
smo clone detach -profile SALES1 -label sales1_clone
```

## smo cmdfile コマンド

ホスト上のシェルでコマンド・ラインに表示できる文字数が制限されている場合は、cmdfile コマンドを使用して、任意のコマンドを実行できます。

## 構文

```
smo cmdfile
-file file_name
\[-quiet \|-verbose\]
```

このコマンドをテキスト・ファイルに格納して、smo cmdfile コマンドを使用して、コマンドを実行できます。テキストファイルに追加できるコマンドは1つだけです。コマンド構文には、smo を含めないでください。



smo cmdfile コマンドは、smo pfile コマンドの代替として使用されます。smo cmdfile は、smo pfile コマンドと互換性はありません。

## パラメータ

- \* -file file\_name \*

実行するコマンドを含むテキスト・ファイルのパスを指定します。

- \* - Quiet \*

エラー・メッセージのみがコンソールに表示されるように指定します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されるように指定します。

## smo credential clear コマンド

このコマンドは、すべてのセキュアリソースのユーザクレデンシャルのキャッシュをクリアします。

### 構文

```
smo credential clear  
\[ -quiet \| -verbose \]
```

### パラメータ

- **- Quiet**

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- **-verbose**

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

### コマンドの例

次に、コマンドを実行しているユーザのクレデンシャルをすべて消去する例を示します。

```
smo credential clear -verbose
```

```
SMO-20024 [INFO ]: Cleared credentials for user "user1".
```

- **関連情報**

[すべてのホスト、リポジトリ、およびプロファイルのユーザ・クレデンシャルの消去](#)

## smo credential delete コマンド

このコマンドは、特定のセキュアリソースのユーザクレデンシャルを削除します。

### 構文

```
    smo credential delete
\[-host -name host_name
-username username\] \|
[-repository
-dbname repo_service_name
-host repo_host
-login -username repo_username
-port repo_port\] \|
\[-profile
-name profile_name\]
[-quiet | -verbose]
```

## パラメータ

### • \* - host\_name \*

SnapManager が実行されているホストサーバの名前を指定します。

host パラメータには、次のオプションがあります。

- -name host\_name : パスワードを削除するホストの名前を指定します。
- -username user\_name : ホスト上のユーザ名を指定します。

### • \* -repository -dbname \*

プロファイルが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

repository パラメータには、次のオプションが含まれます。

- -dbnamerepo\_service\_name : プロファイルを格納するデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。
- -host repo\_host : リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・サーバの名前または IP アドレスを指定します。
- -login-username repo\_username : リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。
- -port repo\_port : リポジトリが格納されているデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

### • \* -profile-name profile\_name \*

データベースに関連付けられたプロファイルを指定します。

profile パラメータには、次のオプションが含まれています。

- -name profilename : パスワードを削除するプロファイルの名前を指定します。

### • \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示

されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次に、プロファイルのクレデンシャルを削除する例を示します。

```
smo credential delete -profile -name user1 -verbose
```

```
SMO-20022 [INFO ]: Deleted credentials and repository mapping  
for profile "user1" in user credentials for "user1".
```

次に、リポジトリのクレデンシャルを削除する例を示します。

```
smo credential delete -repository -dbname SMOREPO -host Host2  
-login -username user1 -port 1521
```

```
SMO-20023 [INFO ]: Deleted repository credentials for  
"user1@SMOREPO/wasp:1521"  
and associated profile mappings in user credentials for "user1".
```

次に、ホストのクレデンシャルを削除する例を示します。

```
smo credential delete -host -name Host2
```

```
SMO-20033 [INFO ]: Deleted host credentials for "Host2" in user  
credentials for "user1".
```

- 関連情報 \*

[個々のリソースのクレデンシャルを削除する](#)

## smo credential list コマンド

このコマンドは、ユーザのすべてのクレデンシャルを表示します。

## 構文

```
smo credential list
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- **\* - Quiet \***

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- **\* -verbose \***

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次の例は、コマンドを実行しているユーザのすべてのクレデンシャルを表示します。

```
smo credential list
```

```
Credential cache for OS user "user1":
Repositories:
Host1_test_user@SMOREPO/hotspur:1521
Host2_test_user@SMOREPO/hotspur:1521
user1_1@SMOREPO/hotspur:1521
Profiles:
HSDBR (Repository: user1_2_1@SMOREPO/hotspur:1521)
PBCASM (Repository: user1_2_1@SMOREPO/hotspur:1521)
HSDB (Repository: Host1_test_user@SMOREPO/hotspur:1521) [PASSWORD NOT SET]
Hosts:
Host2
Host5
Host4
Host1
```

- **関連情報 \***

[ユーザクレデンシャルの表示](#)

## smo credential set コマンドです

このコマンドを使用すると、ホスト、リポジトリ、データベースプロファイルなどのセキュアなリソースにアクセスするためのクレデンシャルをユーザに設定できます。ホストのパスワードは、SnapManager が実行されているホストでのユーザのパスワードです。リポジトリのパスワードは、SnapManager リポジトリスキーマが格納されている Oracle ユーザのパスワードです。プロファイルパスワードは、プロファイルを作成するユーザが構成するパスワードです。ホストとリポジトリのオプションを指定して、オプションの `-password` オプションを指定した場合は、コマンド引数で指定したタイプのパスワードを入力するように求められます。

### 構文

```
smo credential set
\[-host
-name host_name
-username username\]
\[-password password\] \] \|
\[-repository
-dbname repo_service_name
-host repo_host
-login -username repo_username\] \[-password repo_password\] \]
-port repo_port \|
\[-profile
-name profile_name\]
\[-password password\] \]
\[-quiet \| -verbose\]
```

### パラメータ

#### • \* - ホスト名 \*

SnapManager を実行しているホストサーバの名前または IP アドレスを指定します。

host パラメータには、次のオプションがあります。

- `-name host_name` : パスワードを設定するホストの名前を指定します。
- `-username user_name` : ホスト上のユーザ名を指定します。
- `-password password` : ホスト上のユーザのパスワードを指定します。

#### • \* -repository -dbname \*

プロファイルが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

repository パラメータには、次のオプションが含まれます。

- `-dbnamerepo_service_name` : プロファイルを格納するデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。
- `-host repo_host` : リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・サーバの名前または IP アドレスを指定します。
- `-login-username repo_username` : リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。
- `-password password` : リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なパスワードを指定します。
- `-port repo_port` : リポジトリが格納されているデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。
- `* -profile-name profile_name *`

データベースに関連付けられたプロファイルを指定します。

profile パラメータには、次のオプションが含まれています。

- `-name profilename` : パスワードを設定するプロファイルの名前を指定します。
  - `-password password` : プロファイルへのアクセスに必要なパスワードを指定します。
  - `* - Quiet *`
- コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。
- `* -verbose *`

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## リポジトリクレデンシャルを設定するコマンドの例

次に、リポジトリのクレデンシャルを設定する例を示します。

```
smo credential set -repository -dbname SMOREPO -host hotspur -port 1521
-login -username chris
Password for chris@hotspur:1521/SMOREPO : *****
Confirm password for chris@hotspur:1521/SMOREPO : *****
```

```
SMO-12345 [INFO ]: Updating credential cache for OS user "admin1"
SMO-12345 [INFO ]: Set repository credential for user "user1" on
rep01@Host2.
Operation Id [Nff8080810da9018f010da901a0170001] succeeded.
```

## ホストクレデンシャルを設定するためのコマンドの例

ホストクレデンシャルは実際のオペレーティングシステムクレデンシャルを表すため、パスワードのほかにユ

ーザ名も含める必要があります。

```
smo credential set -host -name bismarck -username avida
Password for avida@bismarck : *****
Confirm password for avida@bismarck : *****
```

- 関連情報 \*

[SnapManager によるセキュリティの維持方法](#)

## smo history list コマンド

このコマンドを使用すると、SnapManager 処理の履歴の詳細のリストを表示できます。

### 構文

```
smo history list
-profile \{-name profile_name \[profile_name1, profile_name2\] \| -all
-repository
-login \[-password repo_password\]
-username repo_username
-host repo_host
-dbname repo_dbname
-port repo_port}
-operation \{-operations operation_name \[operation_name1,
operation_name2\] \| -all\}
\[-delimiter character\]
\[-quiet \| -verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、プロファイルが格納されるデータベースの詳細を指定します。

- \* -dbname repo\_dbname \*

プロファイルが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細設定を開始します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -operation { operationsoperation\_name [operation\_name1 、 operation\_name2 ]}-all \*

履歴を設定する SnapManager 処理を指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

```
smo history list -profile -name PROFILE1 -operation -operations
backup -verbose
```

## smo history operation-show コマンド

このコマンドを使用すると、プロファイルに関連付けられた特定の SnapManager 処理の履歴を表示できます。

### 構文

```
smo history operation-show
-profile profile
\{-label label \| -id id\}
\[-quiet \| -verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -label label label|-idID\*

履歴を表示する SnapManager 処理の ID またはラベルを指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

```
smo history operation-show -profile PROFILE1 -label backup1
-verbose
```

## smo history purge コマンド

このコマンドを使用すると、SnapManager 処理の履歴を削除できます。

## 構文

```
smo history purge
-profile \{-name profile_name \[profile_name1, profile_name2\] \| -all
-repository
-login \[-password repo_password\]
-username repo_username
-host repo_host
-dbname repo_dbname
-port repo_port}
-operation \{-operations operation_name \[operation_name1,
operation_name2\] \| -all\}
\[-quiet \| -verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、プロファイルが格納されるデータベースの詳細を指定します。

- \* -dbname repo\_dbname \*

プロファイルが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細設定を開始します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -operation { operationsoperation\_name [operation\_name1、 operation\_name2 ]-all \*

履歴を設定する SnapManager 処理を指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

```
smo history purge -profile -name PROFILE1 -operation
-operations backup
-verbose
```

## smo history remove コマンド

このコマンドを使用すると、単一のプロファイル、複数のプロファイル、またはリポジトリ内のすべてのプロファイルに関連付けられている SnapManager 処理の履歴を削除できます。

### 構文

```
smo history remove
-profile \{-name profile_name \[profile_name1, profile_name2\] \} -all
-repository
-login \[-password repo_password\]
-username repo_username
-host repo_host
-database repo_dbname
-port repo_port}
-operation \{-operations operation_name \[operation_name,
operation_name2\] \} -all\}
\[-quiet \} -verbose\}
```

### パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、プロファイルが格納されるデータベースの詳細を指定します。

- \* -database repo\_dbname \*

プロファイルが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細設定を開始します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -operation { operationsoperation\_name [operation\_name1、 operation\_name2 ]}-all \*

履歴を設定する SnapManager 処理を指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

```
smo history purge -profile -name PROFILE1 -operation
-operations backup
-verbose
```

## smo history set コマンド

history set コマンドを実行すると、履歴を表示する操作を設定できます。

### 構文

```
smo history set
-profile \{-name profile_name \[profile_name1, profile_name2\] \} -all
-repository
-login \[password repo_password\]
-username repo_username
-host repo_host
-dbname repo_dbname
-port repo_port}
-operation \{-operations operation_name \[operation_name1,
operation_name2\] \} -all\}
-retain
{-count retain_count \} -daily daily_count \} -monthly monthly_count \}
-weekly weekly_count}
[-quiet | -verbose]
```

## パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。名前は 30 文字以内で指定し、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -リポジトリ \*

プロファイルが格納されるデータベースの詳細を指定します。

- \* -dbname repo\_dbname \*

プロファイルが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名またはシステム ID を使用できます。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが置かれているホストの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細を指定します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリ・データベースへのアクセスに必要なユーザ名を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリデータベースへのアクセスに使用する TCP (Transmission Control Protocol) ポート番号を指定します。

- \* -operation { operationsoperation\_name [operation\_name1、 operation\_name2 ]-all \*

履歴を設定する SnapManager 操作を指定します。

- \* -retain { -tretretains\_count | -dailydaily\_count | -monthly -monthly\_schedule\_count | -weeklyweeklyweeklyweekly\_count } \*

バックアップの作成、バックアップの検証、リストアとリカバリ、およびクローン作成の各処理の保持クラスを指定します。保持クラスは、処理数、日数、週数、または月に基づいて設定されます。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次の例は、バックアップ処理に関する情報を表示します。

```
smo history set -profile -name PROFILE1 -operation -operations backup
-retain -daily 6
-verbose
```

## smo history show コマンド

このコマンドを使用すると、特定のプロファイルの詳細な履歴情報を表示できます。

### 構文

```
smo history show
-profile profile
```

### パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

```
smo history show -profile -name PROFILE1
-verbose
```

## smo help コマンド

help コマンドを実行すると、SnapManager コマンドとそのオプションに関する情報を表示できます。コマンド名を指定しない場合は、有効なコマンドのリストが表示されます。コマンド名を指定すると、そのコマンドの構文が表示されます。

## 構文

```
smo help
\[ \ ] \ [ backup \ | cmdfile \ | clone \ | credential \ | help \ | operation \ | profile \ | repository \ | system \ | version \ | plugin \ | diag \ | history \ | schedule \ | notification \ | storage \ | get \ ]
\[ -quiet \ | -verbose \ ]
```

## パラメータ

このコマンドで使用できるコマンド名の一部を次に示します。

- バックアップ
- クローン
- cmdfile
- クレデンシャル
- 診断
- 取得
- 通知
- ヘルプ
- 履歴
- 操作
- プラグイン
- プロファイル ( Profile )
- リポジトリ
- スケジュール
- ストレージ
- システム
- バージョン

## smo notification remove-summary-notification コマンド

このコマンドは、リポジトリデータベースの複数のプロファイルに関する概要通知を無効にします。

## 構文

```
smo notification remove-summary-notification
-repository
-dbname repo_service_name
-port repo_port
-host repo_host
-login -username repo_username
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* -リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、リポジトリに対応するデータベースの詳細を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -dbname repo\_service\_name \*

リポジトリが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -login repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに必要なログイン名を指定します。

- \* -Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

次に、リポジトリデータベース上の複数のプロファイルについてサマリー通知を無効にする例を示します。

```
smo notification remove-summary-notification -repository -port 1521
-dbname repo2 -host 10.72.197.133 -login -username oba5
```

## smo notification update-summary-notification コマンド

notification update-summary-notification コマンドを実行すると、リポジトリデータベースのサマリー通知をイネーブルにできます。

### 構文

```
smo notification update-summary-notification
-repository
-port repo_port
-dbname repo_service_name
-host repo_host
-login -username repo_username
-email email-address1,email-address2
-subject subject-pattern
-frequency
[-daily -time daily_time \
-hourly -time hourly_time \
-monthly -time monthly_time -date \[1\|2\|3\|...\|31\ \
-weekly -time weekly_time -day \[1\|2\|3\|4\|5\|6\|7\]\
-profiles profile1,profile2
-notification-host notification-host
\[-quiet \| -verbose\]
```

### パラメータ

- \* -リポジトリ \*

リポジトリ・データベースの詳細を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリ・データベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -dbname repo\_service\_name \*

リポジトリ・データベースの名前を指定します。グローバル名またはシステム ID を使用できます。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが格納されているホストの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細を指定します。これはオプションです。指定しない場合、SnapManager はデフォルトで OS 認証接続モードになります。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリ・データベースへのアクセスに必要なユーザ名を指定します。

- \* -電子メールアドレス 1、電子メールアドレス 2 \*

受信者の E メールアドレスを指定します。

- \* -subject subject-pattern \*

Eメールの件名のパターンを指定します。

- \* -frequency { -daily --time daily\_time | -hourly --time hourly\_schedule\_time | -monthly --time monthly\_schedule-date { 1 | 2 | 3 ... | 31 } | -weekly --time weekly\_time -day { 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 } \* }

Eメール通知を使用するスケジュールのタイプとスケジュールの時刻を指定します。

- \* -profiles profile1、 profile2 \*

Eメール通知を必要とするプロファイル名を指定します。

- **-notification-host notification-host**

サマリー通知 Eメールの送信元である SnapManager サーバホストを指定します。通知ホストのホスト名または IP アドレスを指定できます。ホストの IP 名またはホスト名を更新することもできます。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、リポジトリデータベースのサマリー通知をイネーブルにする例を示します。

```
smo notification update-summary-notification -repository -port 1521
-dbname repo2 -host 10.72.197.133 -login -username oba5 -email
admin@org.com -subject success -frequency -daily -time 19:30:45 -profiles
sales1
```

## smo notification set コマンド

通知セットコマンドを使用してメールサーバを設定できます。

## 構文

```
smo notification set
-sender-email email_address
-mailhost mailhost
-mailport mailport
[-authentication
-username username
-password password]
-repository
-dbname repo_service_name
-port repo_port]
-host repo_host
-login -username repo_username
[-quiet | -verbose]
```

## パラメータ

- \* -sender - email email\_address \*

E メールアラートの送信元の E メールアドレスを指定します。SnapManager 3.2 for Oracle では、E メールアドレスのドメイン名を指定する際にハイフン (-) を使用できます。たとえば、送信者の E メールアドレスを [-sender-email07lbfmdatacenter@continental-corporation.com](mailto:-sender-email07lbfmdatacenter@continental-corporation.com) と指定できます。

- \* -mailhost mailhost\*

E メール通知を処理するホストサーバの名前または IP アドレスを指定します。

- **-mailport mailport**

メールサーバのポート番号を指定します。

- \* -authentication-username username USERNAME - password password\*

E メールアドレスの認証の詳細を指定します。ユーザ名とパスワードを指定する必要があります。

- \* -リポジトリ \*

リポジトリ・データベースの詳細を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリデータベースへのアクセスに使用する TCP (Transmission Control Protocol) ポート番号を指定します。

- \* -dbname repo\_service\_name \*

リポジトリ・データベースの名前を指定します。グローバル名またはシステム ID を使用できます。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが置かれているホストの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細を指定します。これはオプションです。指定しない場合、SnapManager はデフォルトで OS 認証接続モードになります。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリ・データベースへのアクセスに必要なユーザ名を指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次の例では、メールサーバを設定します。

```
smo notification set -sender-email admin@org.com -mailhost
hostname.org.com -mailport 25 authentication -username davis -password
davis -repository -port 1521 -dbname SMOREPO -host hotspur
-login -username grabal21 -verbose
```

## smo operation dump コマンド

operation dump コマンドを実行して、操作に関する診断情報を含む JAR ファイルを作成できます。

### 構文

```
smo operation dump
-profile profile_name
\[-label label_name \|-id guid\]
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

ダンプ・ファイルを作成するプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およ

びその他のデータベース情報が含まれています。

- \* -label label\_name \*

処理のダンプ・ファイルを作成し、指定したラベルを割り当てます。

- **-id GUID**

指定した GUID を持つ処理のダンプ・ファイルを作成します。GUID は、処理を開始するときに SnapManager によって生成されます。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、バックアップのダンプ・ファイルを作成する例を示します。

```
smo operation dump -profile SALES1  
-id 8abc01ec0e78f3e2010e78f3fdd00001
```

```
Dump file created Path:  
C:\userhomedirectory\netapp\smo\3.3\smo_dump_8abc01ec0e78f3e2010e78f3fdd00001.jar
```

- 関連情報 \*

## ダンプ・ファイル

## smo operation list コマンド

このコマンドは、指定したプロファイルに対して記録されたすべての処理の概要情報を表示します。

## 構文

```
smo operation list
-profile profile_name
\[-delimiter character\]
\[-quiet \| -verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -区切り文字 \*

(任意) このパラメータを指定すると、行ごとに別々の行が表示され、その行の属性は指定した文字で区切られます。

- \* - Quiet \*

(任意) コンソール上のエラーメッセージだけを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

(任意) エラー、警告、および情報メッセージをコンソールに表示します。

## コマンドの例

次に、指定したプロファイルに対して記録されたすべての処理の概要情報を表示する例を示します。

```
smo operation list -profile myprofile
```

```
Start Date Status Operation ID Type Host
-----
2007-07-16 16:03:57 SUCCESS 8abc01c813d0a1530113d0a15c5f0005 Profile
Create Host3
2007-07-16 16:04:55 FAILED 8abc01c813d0a2370113d0a241230001 Backup Host3
2007-07-16 16:50:56 SUCCESS 8abc01c813d0cc580113d0cc60ad0001 Profile
Update Host3
2007-07-30 15:44:30 SUCCESS 8abc01c81418a88e011418a8973e0001 Remove Backup
Host3
2007-08-10 14:31:27 SUCCESS 8abc01c814510ba20114510bac320001 Backup Host3
2007-08-10 14:34:43 SUCCESS 8abc01c814510e9f0114510ea98f0001 Mount Host3
2007-08-10 14:51:59 SUCCESS 8abc01c814511e6e0114511e78d40001 Unmount Host3
```

- 関連情報 \*

[処理のリストを表示する](#)

## smo operation show コマンド

operation show コマンドを実行して、指定したプロファイルに対して実行されたすべての処理の概要情報をリストできます。この出力には、クライアントユーザ（クライアント PC のユーザ）と有効なユーザ（選択したホストで有効な SnapManager のユーザ）が表示されます。

### 構文

```
smo operation show
-profile profile_name
\[-label label \| -id id\]
\[-quiet \| -verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -ラベルラベル \*

処理のラベルを指定します。

- \* -id id \*

処理の識別子を指定します。

- \* - Quiet \*

オプション：コンソールにエラーメッセージだけを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

オプション：エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

### 例

次のコマンド・ラインを使用すると、処理に関する詳細情報を表示できます。

```
# smo operation show -profile myprofile -id  
ff8080811295eb1c011295eb28230001
```

#### Operation Attempted

Operation ID: ff8080811295eb1c011295eb28230001

Type:RestoreFor profile: myprofile

With Force: No

Performed on backup

Operation ID: ff8080811295eb1c011296eb23290001

Label: mylabel

#### Operation Runtime Information

Status: SUCCESS

Start date: 2007-07-16 13:24:09 IST

End date: 2007-07-16 14:10:10 IST

Client user: amorrow

Effective user: amorrow

#### Host

Host Run upon: Host3

Process ID: 3122

SnapManager version: 3.3

#### Repository

Connection: user1@SMOREPO/hotspur:1521

Repository version: 3.3

#### Resources in use

Volume:

ssys1:/vol/luke\_ES0\_0 (FlexClone)

Filesystems:C:\\SnapManager\_auto\_mounts\\O-20120712052511170\_0

• 関連情報 \*

[処理の詳細を表示しています](#)

## smo password reset コマンド

password reset コマンドを実行して、プロファイルのパスワードをリセットできます。

構文

```
smo password reset
-profile profile
\[-profile-password profile_password\]
\[-repository-hostadmin-password repository_hostadmin_password\]
[-quiet | -verbose]
```

## パラメータ

- **\* -profile profile \***

パスワードをリセットするプロファイルの名前を指定します。

- **\* -profile-password profile\_password \*** を入力します

プロファイルの新しいパスワードを指定します。

- **-repository-hostadmin -password admin\_password**

リポジトリ・データベースに対するローカル管理者権限を持つ、許可されたユーザ・クレデンシャルを指定します。

- **\* - Quiet \***

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- **\* -verbose \***

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## smo profile create コマンド

profile create コマンドを実行して、リポジトリ内にデータベースのプロファイルを作成できます。このコマンドを実行する前に、データベースをマウントする必要があります。

### 構文

```
smo profile create
-profile profile
\[-profile-password profile_password\]
-repository
-dbname repo_service_name
-host repo_host
-port repo_port
-login -username repo_username
```

```

-database
-dbname db_dbname
-host db_host
[-sid db_sid\]
[-login
\[-username db_username -password db_password -port db_port\]
]
[-rman \{-controlfile \| \{-login
-username rman_username -password rman_password\}
-tnsname rman_tnsname\}\}]

[-retain
\[-hourly \[-count n\] \[-duration m\]\]
\[-daily \[-count n\] \[-duration m\]\]
\[-weekly \[-count n\] \[-duration m\]\]
\[-monthly \[-count n\] \[-duration m\]\]\]
-comment comment
-snapname-pattern pattern
[]
[-summary-notification]
[-notification
\[-success
-email email_address1,email_address2
-subject subject_pattern\]
\[-failure
-email email_address1,email_address2
-subject subject_pattern]
[-separate-archivelog-backups
-retain-archivelog-backups
-hours hours |
-days days |
-weeks weeks |
-months months
[]
[-include-with-online-backups \| -no-include-with-online-backups]]
[-dump]
[-quiet | -verbose]

```

## パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -profile-password profile\_password \* を入力します

プロファイルのパスワードを指定します。

- \* -リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、プロファイルが格納されるデータベースの詳細を指定します。

- \* -dbname repo\_service\_name \*

プロファイルが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -sid db\_sid \*

プロファイルに記述されるデータベースのシステム識別子を指定します。デフォルトでは、SnapManager はデータベース名をシステム識別子として使用します。システム ID がデータベース名と異なる場合は、-sid オプションを使用して指定する必要があります。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細を指定します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリ・データベースへのアクセスに必要なユーザ名を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリ・データベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -database \*

プロファイルに記述されるデータベースの詳細を指定します。このデータベースに対してバックアップ、リストア、またはクローニングが実行されます。

- \* -dbname db\_dbname \*

プロファイルに記述されるデータベースの名前を指定します。グローバル名またはシステム ID を使用できます。

- \* -host db\_host db\_host \*

データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

データベース・ログインの詳細を指定します。

- \* -username repo\_username \*

プロファイルに記述されるデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -password db\_password \*

プロファイルに記述されるデータベースにアクセスするために必要なパスワードを指定します。

- \* -port db\_port \*

プロファイルに記述されるデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* - rman\*

SnapManager が Oracle Recovery Manager (RMAN) を使用してバックアップをカタログ化するために使用する詳細情報を指定します。

- \* -controlfile \*

カタログではなくターゲットのデータベース制御ファイルを RMAN リポジトリとして指定します。

- \* - ログイン \*

RMAN ログインの詳細を指定します。

- \* -password rman\_password\*

RMAN カタログへのログインに使用するパスワードを指定します。

- \* -username rman\_username \*

RMAN カタログへのログインに使用するユーザ名を指定します。

- \* -tnsname tnsname \*

tnsname 接続名を指定します (tnsname.ora ファイルで定義されています)。

- \* -retain [-hourly [-count n] [-duration m] [-daily [-count n] [-duration m] [-weekly] [-weekly [-count n] [-duration n] [-duration m] ] [-monthly [-monthly] [-duration n] ] ] \*

バックアップの保持ポリシーを指定します。保持数のどちらか、または両方に加えて、保持クラス (毎時、毎日、毎週、毎月) の保持期間を指定します。

保持クラスごとに、保持数または保持期間のどちらか、または両方を指定できます。期間はクラスの単位で指定します (たとえば、時間単位の場合は時間単位、日単位の場合は日単位)。たとえば、日次バックアップの保持期間として 7 のみを指定した場合、SnapManager ではプロファイルの日次バックアップの数が制限されません (保持数が 0 であるため)。ただし、SnapManager では、7 日前に作成された日次バックアップが自動的に削除されます。

- \* -comment comment\*

プロファイルドメインを記述するプロファイルのコメントを指定します。

- \* - snapname - pattern pattern パターン \*

Snapshot コピーの命名パターンを示します。すべての Snapshot コピー名に、可用性の高い処理用の

HAOPS などのカスタムテキストを含めることもできます。Snapshot コピーの命名パターンは、プロファイルの作成時、またはプロファイルの作成後に変更できます。更新後のパターンは、まだ作成されていない Snapshot コピーにのみ適用されます。存在する Snapshot コピーには、前の snapname パターンが保持されます。パターンテキストでは、複数の変数を使用できます。

- **-summary-notification**

新しいプロファイルでサマリー E メール通知を有効にします。

- **\*-notification-success -email email\_address1, e-mail address2-subject\_pattern \***

SnapManager の処理が成功したときに受信者に E メールが送信されるように、新しいプロファイルで E メール通知を有効にします。E メールアラートの送信先となる 1 つまたは複数の E メールアドレスと新しいプロファイルの E メール件名のパターンを入力する必要があります。

また、新しいプロファイルにカスタムの件名を含めることもできます。件名テキストは、プロファイルの作成時またはプロファイルの作成後に変更できます。更新された件名は、送信されない E メールにのみ適用されます。Eメールの件名にはいくつかの変数を使用できます。

- **\*-notification-failure-email email\_address1, e-mail address2-subject\_pattern \***

新しいプロファイルで E メール通知を有効にして、SnapManager の処理が失敗したときに受信者に E メールを送信するように指定します。E メールアラートの送信先となる 1 つまたは複数の E メールアドレスと新しいプロファイルの E メール件名のパターンを入力する必要があります。

また、新しいプロファイルにカスタムの件名を含めることもできます。件名テキストは、プロファイルの作成時またはプロファイルの作成後に変更できます。更新された件名は、送信されない E メールにのみ適用されます。Eメールの件名にはいくつかの変数を使用できます。

- **\*-Separate-archivelog -bbackups \*** を実行します

アーカイブログのバックアップをデータファイルのバックアップから分離します。これは、プロファイルの作成時に指定できるオプションのパラメータです。このオプションを使用してバックアップを分けたあと、データファイルのみのバックアップを作成するか、ログのみのバックアップをアーカイブするかを選択できます。

- **\*-retain-archivelog -bbackups -hours | -daysdays | -weekweeks | -monthsmonths \***

アーカイブログの保持期間（毎時、毎日、毎週、毎月）に基づいてアーカイブログのバックアップを保持するように指定します。

- **\* - Quiet \***

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- **\* -verbose \***

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

- **\* -include-y-one-backup\***

オンラインデータベースバックアップにアーカイブログバックアップを含めるように指定します。

- \* -no-include-y-online-backups \*

オンラインデータベースバックアップにアーカイブログバックアップを含めないように指定します。

- \* -dump\*

プロファイル作成処理が成功したあとにダンプ・ファイルを収集するように指定します。

## 例

次の例は、時間単位の保持ポリシーと E メール通知を使用してプロファイルを作成する方法を示しています。

```
smo profile create -profile test_rbac -profile-password netapp -repository
-dbname SMOREP -host hostname.org.com -port 1521 -login -username smorep
-database -dbname
RACB -host saal -sid racb1 -login -username sys -password netapp -port
1521 -rman -controlfile -retain -hourly -count 30 -verbose
Operation Id [8abc01ec0e78ebda010e78ebe6a40005] succeeded.
```

- 関連情報 \*

[効率的なバックアップを行うためのプロファイルの管理](#)

[Snapshot コピーの命名規則](#)

[SnapManager がローカルストレージ上にバックアップを保持する方法](#)

## smo profile delete コマンド

profile delete コマンドを実行して、データベースのプロファイルを削除できます。

### 構文

```
smo profile delete
-profile profile
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile \*

削除するプロファイルを指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、プロファイルを削除する例を示します。

```
smo profile delete -profile SALES1
Operation Id [Ncaf00af0242b3e8dba5c68a57a5ae932] succeeded.
```

- 関連情報 \*

## プロファイルの削除

# smo profile dump コマンド

profile dump コマンドを実行すると、プロファイルに関する診断情報が格納された .jar ファイルを作成できます。

## 構文

```
smo profile dump
-profile profile_name
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

ダンプ・ファイルを作成するプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、プロファイル SALES1 のダンプを作成する例を示します。

```
smo profile dump -profile SALES1
Dump file created
Path:
C:\\userhomedirectory\\netapp\\smo\\3.3.0\\smo_dump_SALES1_hostname.jar
```

## smo profile list コマンド

このコマンドは、現在のプロファイルのリストを表示します。

### 構文

```
smo profile list
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

### コマンドの例

次の例は、既存のプロファイルとその詳細情報を表示します。

```
smo profile list -verbose
Profile name: FGTER
Repository:
  Database name: SMOREPO
  SID: SMOREPO
  Host: hotspur
  Port: 1521
  Username: swagrahn
  Password: *****
Profile name: TEST_RBAC
Repository:
```

```
Database name: smorep
SID: smorep
Host: elbe.rtp.org.com
Port: 1521
Username: smosaal
Password: *****
Profile name: TEST_RBAC_DP_PROTECT
Repository:
  Database name: smorep
  SID: smorep
  Host: elbe.rtp.org.com
  Port: 1521
  Username: smosaal
  Password: *****
Profile name: TEST_HOSTCREDEN_OFF
Repository:
  Database name: smorep
  SID: smorep
  Host: elbe.rtp.org.com
  Port: 1521
  Username: smosaal
  Password: *****
Profile name: SMK_PRF
Repository:
  Database name: smorep
  SID: smorep
  Host: elbe.rtp.org.com
  Port: 1521
  Username: smosaal
  Password: *****
Profile name: FGLEX
Repository:
  Database name: SMOREPO
  SID: SMOREPO
  Host: hotspur
  Port: 1521
  Username: swagrahn
  Password: *****
```

## smo profile show コマンド

profile show コマンドを実行すると、プロファイルに関する情報を表示できます。

## 構文

```
smo profile show
-profile profile_name
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## smo profile sync コマンド

このコマンドは、リポジトリのプロファイル / リポジトリのマッピングを、ローカルホストのホームディレクトリ内のファイルにロードします。

## 構文

```
smo profile sync
-repository
-database repo_service_name
-host repo_host
-port repo_port
-login
-username repo_username
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* - リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、リポジトリに対応するデータベースの詳細を指定します。

- \* -database repo\_service\_name \*

プロファイルを同期するリポジトリ・データベースを指定します。

- \* -host\*

データベース・ホストを指定します。

- \* -port \*

ホストのポートを指定します。

- \* -ログイン \*

ホスト・ユーザのログイン・プロセスを指定します。

- \* -username \*

ホストのユーザ名を指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次に、データベースのプロファイル / リポジトリ・マッピングを同期するコマンドの実行例を示します。

```
smo profile sync -repository -dbname smrepo -host Host2 -port 1521 -login
-username user2
SMO-12345 [INFO ]: Loading profile mappings for repository
"user2@Host2:smrepo" into cache for OS User "admin".
Operation Id [Nff8080810da9018f010da901a0170001] succeeded.
```

## smo profile update コマンド

profile update コマンドを実行して、既存のプロファイルの情報を更新できます。

### 構文

```

    smo profile update
-profile profile
\[-new-profile new_profile_name\]
\[-profile-password profile_password\]
[-database
-dbname db_dbname
-host db_host
\[-sid db_sid\]
[-login
\[-username db_username -password db_password -port db_port\]
]
[\{-rman \{-controlfile \| \{\{-login
-username rman_username
-password rman_password \}
\[-tnsname tnsname\}\}\}\} \|
-remove-rman\]

[-retain
\[-hourly \[-count n\] \[-duration m\]\]
\[-daily \[-count n\] \[-duration m\]\]
\[-weekly \[-count n\] \[-duration m\]\]
\[-monthly \[-count n\] \[-duration m\]\]\]
-comment comment
-snapname-patternpattern
[]
[-summary-notification]
[-notification
\[-success
-email email_address1,email_address2
-subject subject_pattern\]
\[-failure
-email email_address1,email_address2
-subject subject_pattern]
[-separate-archivelog-backups
-retain-archivelog-backups
-hours hours |
-days days |
-weeks weeks |
-months months
[]
[-include-with-online-backups \| -no-include-with-online-backups]]
[-dump]
\[-quiet \| -verbose\]

```

## パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -profile-password profile\_password \*

プロファイルのパスワードを指定します。

- \* -new-profile new\_profile\_name \*

プロファイルに指定できる新しい名前を指定します。

- \* -database \*

プロファイルに記述されるデータベースの詳細を指定します。このデータベースに対してバックアップ、リストアなどが実行されます。

- \* -dbname db\_dbname \*

プロファイルに記述されるデータベースの名前を指定します。グローバル名またはシステム ID を使用できます。

- \* -host db\_host \*

データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -sid db\_sid \*

プロファイルに記述されるデータベースのシステム識別子を指定します。デフォルトでは、SnapManager はデータベース名をシステム識別子として使用します。システム ID がデータベース名と異なる場合は、-sid オプションを使用して指定する必要があります。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細を指定します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリ・データベースへのアクセスに必要なユーザ名を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリ・データベースへのアクセスに必要な TCP ポート番号を指定します。

- \* -database \*

プロファイルに記述されるデータベースの詳細を指定します。このデータベースに対してバックアップ、リストア、またはクローニングが実行されます。

- \* -dbname db\_dbname \*

プロファイルに記述されるデータベースの名前を指定します。グローバル名またはシステム ID を使用できます。

- \* -host db\_host \*

データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

データベース・ログインの詳細を指定します。

- \* -username repo\_username \*

プロファイルに記述されるデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -password db\_password \*

プロファイルに記述されるデータベースにアクセスするために必要なパスワードを指定します。

- \* -port db\_port \*

プロファイルに記述されるデータベースへのアクセスに必要な TCP ポート番号を指定します。

- \* - rman\*

SnapManager が Oracle Recovery Manager ( RMAN ) を使用してバックアップをカタログ化するために使用する詳細情報を指定します。

- \* -controlfile \*

カタログではなくターゲットのデータベース制御ファイルを RMAN リポジトリとして指定します。

- \* -ログイン \*

RMAN ログインの詳細を指定します。

- \* -password rman\_password\*

RMAN カタログへのログインに使用するパスワードを指定します。

- \* -username rman\_username \*

RMAN カタログへのログインに使用するユーザ名を指定します。

- \* -tnsname tnsname \*

tnsname 接続名を指定します ( tnsname.ora ファイルで定義されています) 。

- **-remove-rman**

プロファイルで RMAN を削除するように指定します。

- \* -retain [-hourly [-countn] [-duration m] [-daily [-duration n] [-duration n] [-duration m]] [-weekly [-count n] [-duration n] [-duration m]] [-monthly [-monthly ] [-duration n] ] ] \*

バックアップの保持クラス（毎時、毎日、毎週、毎月）を指定します。

各保持クラスについて、保持数または保持期間、あるいはその両方を指定できます。期間はクラスの単位で指定します（たとえば、時間単位の場合は時間単位、日単位の場合は日単位）。たとえば、日次バックアップの保持期間として7のみを指定した場合、SnapManagerではプロファイルの日次バックアップの数が制限されません（保持数が0であるため）。ただし、SnapManagerでは、7日前に作成された日次バックアップが自動的に削除されます。

- `* -comment comment*`

プロファイルのコメントを指定します。

- `* - snapname - pattern pattern パターン *`

Snapshot コピーの命名パターンを示します。すべての Snapshot コピー名に、可用性の高い処理用の HAOPS などのカスタムテキストを含めることもできます。Snapshot コピーの命名パターンは、プロファイルの作成時、またはプロファイルの作成後に変更できます。更新後のパターンは、まだ実行されていない Snapshot コピーにのみ適用されます。存在する Snapshot コピーには、前の snapname パターンが保持されます。パターンテキストでは、複数の変数を使用できます。

- `-summary-notification`

既存のプロファイルでサマリー E メール通知を有効にします。

- `* -notification [-success -email e-mail address1, e-mail address2-subject_pattern]*`

既存のプロファイルに関する E メール通知を有効にして、SnapManager 処理が成功したときに受信者から E メールが受信されるようにします。E メールアラートの送信先となる1つまたは複数の E メールアドレスと、既存のプロファイルの E メール件名のパターンを入力する必要があります。

件名のテキストは、プロファイルの更新中に変更することも、カスタムの件名テキストを含めることもできます。更新された件名は、送信されない E メールにのみ適用されます。Eメールの件名にはいくつかの変数を使用できます。

- `* -notification [-failure-email e-mail address1, e-mail address2-subject_pattern]*`

既存のプロファイルに関する E メール通知を有効にして、SnapManager 処理が失敗したときに受信者に E メールを送信できるようにします。E メールアラートの送信先となる1つまたは複数の E メールアドレスと、既存のプロファイルの E メール件名のパターンを入力する必要があります。

件名のテキストは、プロファイルの更新中に変更することも、カスタムの件名テキストを含めることもできます。更新された件名は、送信されない E メールにのみ適用されます。Eメールの件名にはいくつかの変数を使用できます。

- `*-Separate-archivelog -bbackups *` を実行します

アーカイブログバックアップとデータファイルバックアップを分離します。これは、プロファイルの作成時に指定できるオプションのパラメータです。このオプションを使用してバックアップを分けたあとで、データファイルのみのバックアップまたはアーカイブログのみのバックアップを作成できます。

- `*-retain-archivelog -bbackups -hours | -daysdays | -weeksweeks | -monthsmonths *`

アーカイブログの保持期間（毎時、毎日、毎週、毎月）に基づいてアーカイブログのバックアップを保持するように指定します。

- **-include-y-one-backups|-no-include-online-backups**

オンラインデータベースバックアップにアーカイブログバックアップを含めるように指定します。

オンラインデータベースバックアップにアーカイブログバックアップを含めないように指定します。

- **\* -dump\***

プロファイル作成処理が成功したあとにダンプ・ファイルを収集するように指定します。

- **\* - Quiet \***

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- **\* -verbose \***

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、プロファイルで説明されているデータベースのログイン情報を変更し、このプロファイルに電子メール通知を設定する例を示します。

```
smo profile update -profile SALES1 -database -dbname SALESDB
  -sid SALESDB -login -username admin2 -password d4jPe7bw -port 1521
-host server1 -profile-notification -success -e-mail Preston.Davis@org.com
-subject success
Operation Id [8abc01ec0e78ec33010e78ec3b410001] succeeded.
```

- **関連情報 \***

[プロファイルのパスワードを変更する](#)

[SnapManager がローカルストレージ上にバックアップを保持する方法](#)

## smo profile verify コマンド

profile verify コマンドを実行して、プロファイルの設定を確認できます。このコマンドを実行する前に、データベースをマウントする必要があります。

## 構文

```
smo profile verify
-profile profile_name
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile \*

検証するプロファイルを指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、プロファイルを検証する例を示します。

```
smo profile verify -profile profileA -verbose
[ INFO] SMO-13505: SnapDrive environment verification passed.
[ INFO] SMO-13507: JDBC verification for "OS authenticated:
NEWDB/hostA.rtp.com" passed.
[ INFO] SMO-13506: SQLPlus verification for database SID "NEWDB" passed.
Environment: [ORACLE_HOME=E:\app\Administrator\product\11.2.0\dbhome_1]
[ INFO] SMO-07431: Saving starting state of the database:
Database[NEWDB(OPEN)], Service[RUNNING].
[ INFO] SMO-07431: Saving starting state of the database:
Database[NEWDB(OPEN)], Service[RUNNING].
[ INFO] SD-00016: Discovering storage resources for F:\.
[ INFO] SD-00017: Finished storage discovery for F:\.
[ INFO] SD-00016: Discovering storage resources for F:\.
[ INFO] SD-00017: Finished storage discovery for F:\.
[ INFO] SD-00016: Discovering storage resources for H:\.
[ INFO] SD-00017: Finished storage discovery for H:\.
[ INFO] SD-00016: Discovering storage resources for G:\.
[ INFO] SD-00017: Finished storage discovery for G:\.
[ INFO] SD-00016: Discovering storage resources for I:\.
[ INFO] SD-00017: Finished storage discovery for I:\.
[ WARN] SMO-05071: Database profile HADLEY is not eligible for fast
restore: Restore Plan:
Preview:

The following components will be restored completely via: host side
file copy restore
F:\NEWDB\SYSAUX01.DBF
F:\NEWDB\SYSTEM01.DBF
```

```
F:\NEWDB\UNDOTBS01.DBF
```

```
F:\NEWDB\USERS01.DBF
```

#### Analysis:

The following reasons prevent certain components from being restored completely via: storage side file system restore

\* Files in file system F:\ not part of the restore scope will be reverted.

Components not in restore scope:

```
F:\_TESTCLN\CONTROL01.CTL
```

```
F:\_TESTCLN\REDO_1.LOG
```

```
F:\_TESTCLN\REDO_2.LOG
```

```
F:\_TESTCLN\REDO_3.LOG
```

Components to restore:

```
F:\NEWDB\SYS_AUX01.DBF
```

```
F:\NEWDB\SYSTEM01.DBF
```

```
F:\NEWDB\UNDOTBS01.DBF
```

```
F:\NEWDB\USERS01.DBF
```

\* Reasons denoted with an asterisk (\*) are overridable.

```
[ INFO] SMO-07433: Returning the database to its initial state: Database [NEWDB (OPEN)], Service[RUNNING].
```

```
[ INFO] SMO-13048: Profile Verify Operation Status: SUCCESS
```

```
[ INFO] SMO-13049: Elapsed Time: 0:19:06.949
```

```
Operation Id [N5bc18bd5c3be27a795ce3857093a926a] succeeded.
```

• 関連情報 \*

## プロファイルの検証

# smo repository create コマンド

## 構文

このコマンドは、データベースプロファイルおよび関連付けられたクレデンシャルを格納するリポジトリを作成します。また、このコマンドはブロックサイズが適切かどうかをチェックします。

```
    smo repository create
-repository
-port repo_port
-dbname repo_service_name
-host repo_host
-login -username repo_username
[-force] [-noprompt]
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* -リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、リポジトリに対応するデータベースの詳細を指定します

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -dbname repo\_service\_name \*

リポジトリが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細設定を開始します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -force \*

リポジトリを強制的に作成しようとします。このオプションを使用すると、SnapManager により、リポジトリを作成する前にリポジトリのバックアップを促すプロンプトが表示されます。

- \* -noprompt \*

force オプションを使用した場合、は、リポジトリを作成する前にリポジトリのバックアップを促すプロンプトを表示しません。noprompt オプションを使用するとプロンプトが表示されないため、スクリプトを使用したリポジトリの作成が容易になります。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンド例

次の例では、ホスト Hotspur 上のデータベース SMOREPO にリポジトリを作成します。

```
smo repository create -repository -port 1521 -dbname SMOREPO -host hotspur
-login -username grabal21 -verbose
SMO-09202 [INFO ]: Creating new schema as grabal21 on
jdbc:oracle:thin:@//hotspur:1521/SMOREPO.
SMO-09205 [INFO ]: Schema generation complete.
SMO-09209 [INFO ]: Performing repository version INSERT.
SMO-09210 [INFO ]: Repository created with version: 30
SMO-13037 [INFO ]: Successfully completed operation: Repository Create
SMO-13049 [INFO ]: Elapsed Time: 0:00:08.844
```

- 関連情報 \*

### リポジトリの作成

## smo repository delete コマンド

このコマンドは、データベースプロファイルおよび関連付けられているクレデンシャルを格納するリポジトリを削除します。リポジトリを削除できるのは、リポジトリにプロファイルがない場合だけです。

## 構文

```
smo repository delete
-repository
-port repo_port
-database_name repo_service_name
-host repo_host
-login -username repo_username
[-force] [-noprompt]
[-quiet | -verbose]
```

## パラメータ

- \* - リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、リポジトリに対応するデータベースの詳細を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -dbname repo\_service\_name \*

リポジトリが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細設定を開始します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -force \*

未完了の処理がある場合でも、リポジトリを強制的に削除しようとしています。未完了の処理がある場合、SnapManager はリポジトリを削除するかどうかを確認するプロンプトを表示します。

- \* -noprompt \*

は、リポジトリを削除する前にプロンプトを表示しません。noprompt オプションを使用するとプロンプトが表示されないため、スクリプトを使用したリポジトリの削除が容易になります。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンド例

次に、データベース SALESDB 内のリポジトリを削除する例を示します。

```
smo repository delete -repository -port 1521 -dbname smorep
-host nila -login -username smofresno -force -verbose
This command will delete repository "smofresno@smorep/nila".
Any resources maintained by the repository must be cleaned up manually.
This may include snapshots, mounted backups, and clones.
Are you sure you wish to proceed (Y/N)?Y
[ INFO] SMO-09201: Dropping existing schema as smofresno
on jdbc:oracle:thin:@//nila:1521/smorep.
[ INFO] SMO-13048: Repository Delete Operation Status: SUCCESS
[ INFO] SMO-13049: Elapsed Time: 0:00:06.372
[ INFO] SMO-20010: Synchronizing mapping for profiles in
repository "smofresno@smorep/nila:1521".
[ WARN] SMO-20029: No repository schema exists in
"smofresno@smorep/nila:1521".
Deleting all profile mappings for this repository.
[ INFO] SMO-20012: Deleted stale mapping for profile "TESTPASS".
```

## smo repository rollback コマンド

このコマンドを使用すると、SnapManager の上位バージョンからアップグレード元のバージョンにロールバックまたはリバートできます。

### 構文

```
smo repository rollback
-repository
-database repo_service_name
-host repo_host
-login -username repo_username
-port repo_port
-rollbackhost host_with_target_database
[-force]
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \*-リポジトリ\*

repository のあとに続くオプションは、リポジトリに対応するデータベースの詳細を指定します。

- \*-dbname repo\_service\_name \*

リポジトリが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* - ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細設定を開始します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- **-rollbackhost host\_name\_or\_target\_database**

上位バージョンの SnapManager から元の下位バージョンにロールバックするホストの名前を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -force \*

リポジトリを強制的に更新しようとします。更新前に、現在のリポジトリのバックアップを作成するように要求されます。 SnapManager

- \* -noprompt \*

は、リポジトリデータベースを更新する前にプロンプトを表示しません。noprompt オプションを使用するとプロンプトが表示されないため、スクリプトを使用したリポジトリの更新が容易になります。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次に、データベース SALESDB 内のリポジトリを更新する例を示します。

```
smo repository rollback -repository -dbname SALESDB
-host server1 -login -username admin -port 1521 -rollbackhost hostA
```

## smo repository rollingupgrade コマンドは、次のようになります

このコマンドは、単一のホストまたは複数のホスト、および関連するターゲットデータベースを下位バージョンの SnapManager から上位バージョンへローリングアップグレードします。アップグレードされたホストは、上位バージョンの SnapManager でのみ管理されます。

### 構文

```
smo repository rollingupgrade
-repository
-dbname repo_service_name
-host repo_host
-login -username repo_username
-port repo_port
-upgradehost host_with_target_database
[-force] [-noprompt]
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、リポジトリに対応するデータベースの詳細を指定します。

- \* -dbname repo\_service\_name \*

リポジトリが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細設定を開始します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -ホスト host\_with\_target\_database \* をアップグレードしています

SnapManager の下位バージョンから上位バージョンにアップグレードするホストの名前を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -force \*

リポジトリを強制的に更新しようとします。更新前に、現在のリポジトリのバックアップを作成するように要求されます。 SnapManager

- \* -noprompt \*

は、リポジトリデータベースを更新する前にプロンプトを表示しません。 noprompt オプションを使用するとプロンプトが表示されないため、スクリプトを使用したリポジトリの更新が容易になります。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次に、データベース SALESDB 内のリポジトリを更新する例を示します。

```
smo repository rollingupgrade -repository -dbname SALESDB
-host server1 -login -username admin -port 1521 -upgradehost hostA
```

## smo repository show コマンド

このコマンドは、リポジトリに関する情報を表示します。

### 構文

```
smo repository show
-repository
-database repo_service_name
-host repo_host
-port repo_port
-login -username repo_username
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* - リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、リポジトリに対応するデータベースの詳細を指定します。

- \* -dbname repo\_service\_name \*

リポジトリが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細設定を開始します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンド例

次に、データベース SALESDB 内のリポジトリに関する詳細を表示する例を示します。

```
smo repository show -repository -dbname SALESDB -host server1
-port 1521 -login -username admin
Repository Definition:
User Name: admin
Host Name: server1
Database Name: SALESDB
Database Port: 1521
Version: 28
Hosts that have run operations using this repository: 2
server2
server3
Profiles defined in this repository: 2
GSF5A
GSF3A
Incomplete Operations: 0
```

## smo repository update コマンド

このコマンドは、SnapManager のアップグレード時に、データベースプロファイルおよび関連するクレデンシャルを格納するリポジトリを更新します。SnapManager の新しいバージョンをインストールする場合は、そのバージョンを使用する前に、repository update コマンドを実行する必要があります。このコマンドは、リポジトリに不完全なコマンドがない場合にのみ使用できます。

### 構文

```
smo repository update
  -repository
  -dbname repo_service_name
  -host repo_host
  -login -username repo_username
  -port repo_port
  [-force] [-noprompt]
  \[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* - リポジトリ \*

repository のあとに続くオプションは、リポジトリに対応するデータベースの詳細を指定します。

- \* -dbname repo\_service\_name \*

リポジトリが格納されたデータベースの名前を指定します。グローバル名または SID を使用します。

- \* -host repo\_host \*

リポジトリ・データベースが稼働しているホスト・コンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

- \* -ログイン \*

リポジトリ・ログインの詳細設定を開始します。

- \* -username repo\_username \*

リポジトリが格納されたデータベースにアクセスするために必要なユーザ名を指定します。

- \* -port repo\_port \*

リポジトリが格納されたデータベースへのアクセスに使用する TCP ポート番号を指定します。

- \* -force \*

リポジトリを強制的に更新しようとします。更新前に、現在のリポジトリのバックアップを作成するように要求されます。 SnapManager

- \* -noprompt \*

は、リポジトリデータベースを更新する前にプロンプトを表示しません。 noprompt オプションを使用するとプロンプトが表示されないため、スクリプトを使用したリポジトリの更新が容易になります。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## コマンドの例

次に、データベース SALESDB 内のリポジトリを更新する例を示します。

```
smo repository update -repository -dbname SALESDB
-host server1 -login -username admin -port 1521
```

## smo schedule create コマンド

schedule create コマンドを使用して、特定の時間にバックアップを作成するようにスケジュールを設定できます。

## 構文

```
smo schedule create
-profile profile_name
\[-full\{-auto \|-online \|-offline\}
\[-retain -hourly \|-daily \|-weekly \|-monthly \|-unlimited\]
\[-verify\]\] |
\[-data \[\[-files files \[files\]\] \|
\[-tablespaces tablespaces \[tablespaces\]\] \{-auto \|-online \|-
-offline\}
\[-retain -hourly \|-daily \|-weekly \|-monthly \|-unlimited\]
\[-verify\]\] |
\[-archivelogs\]}
\[-label label\]
\[-comment comment\]

\[-backup-dest path1 \[, path2\]\]
\[-exclude-dest path1 \[, path2\]\]
\[-prunelogs \{-all \|-until-scn until-scn \|-until -date yyyy-MM-
dd:HH:mm:ss\] \|-before \{-months \|-days \|-weeks \|-hours\}
-prune-dest prune_dest1,\[prune_dest2\]\]
-schedule-name schedule_name
\[-schedule-comment schedule_comment\]
-interval \{-hourly \|-daily \|-weekly \|-monthly \|-onetimeonly\}
-cronstring cron_string
-start-time \{start_time <yyyy-MM-dd HH:mm\>\}
-runasuser runasuser
\[-taskspec taskspec\]
-force
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

バックアップのスケジュールを設定するデータベースに関連するプロファイルの名前を指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* - auto オプション \*

データベースがマウント済み状態またはオフライン状態の場合、SnapManager はオフラインバックアップを実行します。データベースが OPEN または ONLINE 状態の場合、SnapManager はオンライン・バックアップを実行します。force オプションを -offline オプションと指定すると、データベースが現在オンラインである場合でも、SnapManager によってオフライン・バックアップが強制的に実行されます。

- \* - オンラインオプション \*

オンライン・データベース・バックアップを指定します。

• \* -offline オプション \*

データベースがシャットダウン状態のときのオフラインバックアップを指定します。データベースが OPEN または MOUNTED の場合には、バックアップは失敗します。force オプションを使用した場合、SnapManager はデータベースの状態を変更し、オフライン・バックアップのためにデータベースをシャットダウンしようとします。

• \* -フルオプション \*

データベース全体がバックアップされます。これには、すべてのデータ、アーカイブログ、および制御ファイルが含まれます。アーカイブ REDO ログおよび制御ファイルは、実行するバックアップのタイプに関係なくバックアップされます。データベースの一部だけをバックアップする場合は、-files オプションまたは -tablespaces オプションを使用します。

• \* -ファイルリスト \*

指定されたデータファイル、およびアーカイブされたログファイルと制御ファイルのみをバックアップします。ファイル名のリストはスペースで区切ります。データベースが OPEN 状態の場合、SnapManager は該当する表領域がオンライン・バックアップ・モードになっているかどうかを検証します。

• \* -表領域 \*

指定されたデータベースの表領域、およびアーカイブされたログファイルと制御ファイルのみをバックアップします。表領域名はスペースで区切ります。データベースが OPEN 状態の場合、SnapManager は該当する表領域がオンライン・バックアップ・モードになっているかどうかを検証します。

• \* -ラベル名 \*

このバックアップのオプション名を指定します。この名前はプロファイル内で一意である必要があります。名前には、アルファベット、数字、アンダースコア ( \_ )、およびハイフン ( - ) を使用できます。1文字目をハイフンにすることはできません。

ラベルを指定しない場合、SnapManager は scope\_type\_date 形式でデフォルトのラベルを作成します。

- 範囲は F でフル・バックアップを示し 'P' ではパーシャル・バックアップを示します
- type は、オフライン (コールド) バックアップを示す C、オンライン (ホット) バックアップを示す H、または自動バックアップを示す A です (例: P\_A\_20081010060037IST)。
- date は、バックアップを作成した年月日、および時刻です。

SnapManager は 24 時間方式のクロックを使用します。

たとえば、2007 年 1 月 16 日の午後 5 時 45 分 16 分にデータベースをオフラインにしてフルバックアップを実行したとします東部標準時、SnapManager はラベル F\_C\_20070116174516EST を作成します。

• \* -comment string\*

このバックアップに関するコメントを指定します。文字列は一重引用符 ( ' ) で囲みます。



一部のシェルでは、引用符が除去されます。ご使用のシェルに当てはまる場合は、引用符にバックスラッシュ (\) を含める必要があります。たとえば、「\」と入力する必要があります。これらはコメントです。

#### • \* -verify オプション \*

Oracle の dbv ユーティリティを実行して、バックアップ内のファイルが破損していないかが検証されます。



verify オプションを指定した場合、検証処理が完了するまで、バックアップ処理は完了しません。

#### • \* -force オプション \*

データベースが正しい状態でない場合に、状態を強制的に変更します。たとえば、指定したバックアップのタイプおよびデータベースの状態に基づいて、SnapManager によってデータベースの状態がオンラインからオフラインに変更されることがあります。

- ローカルインスタンスがシャットダウン状態で、少なくとも 1 つのインスタンスが開いている場合は、-force オプションを使用してローカルインスタンスを mounted に変更できます。
- インスタンスが開いていない場合は、-force オプションを使用してローカルインスタンスを open に変更できます。

#### • \* - { -hourly | -daily | -weekly | -monthly | -unlimited } \* を保持できます

バックアップを時間単位、日単位、週単位、月単位、または無制限単位で保持するかどうかを指定します。retain オプションを指定しない場合、保持クラスはデフォルトで -hourly に設定されます。バックアップを無期限に保持するには、-unlimited オプションを使用します。unlimited オプションを指定すると、バックアップは保持ポリシーで削除できなくなります。

#### • -archivelogs

アーカイブログバックアップの作成を指定します。

#### • -backup-dest path1、[,path2]

アーカイブログバックアップのアーカイブログのデスティネーションを指定します。

#### • -exclude-dest path1[,path2]

バックアップから除外するアーカイブログの送信先を指定します。

#### • \*-prunelogs {-all|-until -scnuntil -scnuntil -dateyyyy-md-dd : HH : mm : ss | -before { -months | -days | -weeks | -hours } \* }

バックアップの作成時に指定したオプションに基づいて、アーカイブログデスティネーションからアーカイブログファイルを削除するかどうかを指定します。all オプションを指定すると、アーカイブログのデスティネーションからすべてのアーカイブログファイルが削除されます。until SCN オプションを使用すると、指定したシステム変更番号 (SCN) までアーカイブログファイルが削除されます。until date オプションを使用すると、指定した期間が経過するまでアーカイブ・ログ・ファイルが削除されます。before オプションを指定すると、指定した期間 (日、月、週、時間) 前のアーカイブログファイルが削除されます。

- \* -schedule - name schedule\_name \* と入力します

スケジュールに指定する名前を指定します。

- \* -schedule - comment schedule\_comment \*

バックアップのスケジュール設定に関するコメントを指定します。

- \* -interval { -hourly | -daily | -weekly | -monthly | -onetimeonly } \* を使用できます

バックアップを作成する間隔を指定します。バックアップのスケジュールは、毎時、毎日、毎週、毎月、または 1 回のみ設定できます。

- **cronstring cron\_string**

cronstring を使用してバックアップのスケジュールを指定します。CronTrigger のインスタンスの構成には cron 式が使用されます。cron 式は、次のサブ式で構成される文字列です。

- 1 は秒を表します。
- 2 は分を表します。
- 3 は時間を表します。
- 4 は 1 か月の 1 日を表します。
- 5 は月を表します。
- 6 は 1 週間のうちの 1 日を表します。
- 7 は年を表します (オプション)。

- \* -start-time yyyy-mm-dd HH : MM \*

スケジュールされた処理の開始時刻を指定します。スケジュールの開始時刻は、yyyy-mm-dd HH : MM 形式で指定します。

- **-runAsUser runAsUser**

バックアップのスケジュール設定時に、スケジュールされたバックアップ処理のユーザ ( root ユーザまたは Oracle ユーザ) を変更するように指定します。

- \* -taskspec taskspec \*

バックアップ処理の前処理アクティビティまたは後処理アクティビティに使用できるタスク仕様 XML ファイルを指定します。xml ファイルの完全なパスを -taskspec オプションで指定する必要があります

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## smo schedule delete コマンド

このコマンドは、不要になったバックアップスケジュールを削除します。

### 構文

```
smo schedule delete
-profile profile_name
-schedule-name schedule_name
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

バックアップスケジュールを削除するデータベースに関連するプロファイルの名前を指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* -schedule - name schedule\_name \* と入力します

バックアップスケジュールの作成時に指定したスケジュール名を指定します。

## smo schedule list コマンド

このコマンドは、プロファイルに関連付けられているスケジュール済み処理をリスト表示します。

### 構文

```
smo schedule list
-profile profile_name
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

データベースに関連するプロファイルの名前を指定します。このプロファイルを使用すると、スケジュール済み処理のリストを表示できます。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

## smo schedule resume コマンド

このコマンドは、中断したバックアップスケジュールを再開します。

### 構文

```
smo schedule resume
-profile profile_name
-schedule-name schedule_name
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

中断したバックアップのスケジュールを再開するデータベースに関連するプロファイルの名前を指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* -schedule - name schedule\_name \* と入力します

バックアップスケジュールの作成時に指定したスケジュール名を指定します。

## smo schedule suspend コマンド

このコマンドは、バックアップスケジュールが再開されるまでバックアップスケジュールを一時停止します。

### 構文

```
smo schedule suspend
-profile profile_name
-schedule-name schedule_name
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

バックアップスケジュールを一時停止するデータベースに関連するプロファイルの名前を指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* -schedule - name schedule\_name \* と入力します

バックアップスケジュールの作成時に指定したスケジュール名を指定します。

# smo schedule update コマンド

このコマンドは、バックアップのスケジュールを更新します。

## 構文

```
smo schedule update
-profile profile_name
-schedule-name schedule_name
\[-schedule-comment schedule_comment\]
-interval \{-hourly \| -daily \| -weekly \| -monthly \| -onetimeonly\}
-cronstring cron_string
-start-time \{start_time <yyyy-MM-dd HH:mm\>\}
-runasuser runasuser
\[-taskspec taskspec\]
-force
\[-quiet \| -verbose\]
```

## パラメータ

- \* -profile profile\_name \*

バックアップをスケジュールするデータベースに関連するプロファイルの名前を指定します。プロファイルには、データベースの識別子およびその他のデータベース情報が含まれています。

- \* -schedule - name schedule\_name \* と入力します

スケジュールに指定する名前を指定します。

- \* -schedule - comment schedule\_comment \*

バックアップのスケジュール設定に関するコメントを指定します。

- \* -interval { -hourly | -daily | -weekly | -monthly | -onetimeonly } \* を使用できます

バックアップを作成する間隔を示します。バックアップのスケジュールは、毎時、毎日、毎週、毎月、または 1 回だけ設定できます。

- **cronstring cron\_string**

cronstring を使用してバックアップをスケジュールするように指定します。CronTrigger のインスタンスの構成には cron 式が使用されます。cron 式は、実際には 7 つのサブ式で構成される文字列です。

- 1 は秒を表します
- 2 は分を表します
- 3 は時間を表します
- 4 は 1 か月の 1 日を表します

- 5 は月を表します
- 6 は 1 週間のうちの 1 日を表します
- 7 は年を表します (オプション)。

- \* -start-time yyyy-mm-dd HH : MM \*

スケジュール処理の開始時刻を指定します。スケジュールの開始時刻は、yyyy-mm-dd HH : MM の形式で指定します。

- -runAsUser runAsUser

バックアップのスケジュール設定時にスケジュールされたバックアップ処理のユーザを変更するように指定します。

- \*-taskspec taskspec \*

バックアップ処理の前処理または後処理に使用できるタスク仕様 XML ファイルを指定します。XML ファイルの完全なパスを指定する必要があります。このパスには -taskspec オプションがあります。

## smo storage list コマンド

特定のプロファイルに関連付けられているストレージ・システムのリストを表示するには、storage list コマンドを実行します。

### 構文

```
smo storage list
-profile profile
```

### パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。名前は 30 文字以内で指定し、ホスト内で一意である必要があります。

### 例

次の例は、プロファイル mjullian に関連付けられているストレージシステムを表示します。

```
smo storage list -profile mjullian
```

```
Sample Output:
Storage Controllers
-----
FAS3020-RTP07OLD
```

## smo storage rename コマンド

このコマンドは、ストレージシステムの名前または IP アドレスを更新します。

### 構文

```
smo storage rename
-profile profile
-oldname old_storage_name
-newname new_storage_name
\[-quiet \|-verbose\]
```

### パラメータ

- \* -profile profile \*

プロファイルの名前を指定します。この名前には 30 文字まで使用でき、ホスト内で一意である必要があります。

- \* -oldname old\_storage\_name \*

ストレージシステムの名前を変更する前の、ストレージシステムの IP アドレスまたは名前を指定します。smo storage list コマンドを実行したときに表示されるストレージ・システムの IP アドレスまたは名前を入力する必要があります。

- \* - newname new\_storage\_name \*

ストレージシステムの名前を変更したあとの、ストレージシステムの IP アドレスまたは名前を示します。

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## 例

次に、smo storage rename コマンドを使用してストレージ・システムの名前を変更する例を示します。

```
smo storage rename -profile mjullian -oldname lech -newname hudson  
-verbose
```

## smo system dump コマンド

システムダンプコマンドを実行して、サーバ環境に関する診断情報を含む JAR ファイルを作成できます

### 構文

```
smo system dump  
\[ -quiet \| -verbose \]
```

### パラメータ

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

### system dump コマンドの例

次に、smo system dump コマンドを使用して JAR ファイルを作成する例を示します。

```
smo system dump  
Path: C:\userhomedirectory\netapp\smo\3.3.0\smo_dump_hostname.jar
```

## smo system verify コマンド

このコマンドを使用すると、SnapManager の実行に必要な環境のすべてのコンポーネントが正しく設定されているかどうかを確認できます。

### 構文

```
smo system verify
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

エラー、警告、および情報メッセージがコンソールに表示されます。

## system verify コマンドの例

次に、smo system verify コマンドの使用例を示します。

```
smo system verify
SMO-13505 [INFO ]: Snapdrive verify passed.
SMO-13037 [INFO ]: Successfully completed operation: System Verify
SMO-13049 [INFO ]: Elapsed Time: 0:00:00.559
Operation Id [N4f4e910004b36cfecee74c710de02e44] succeeded.
```

## smo version コマンド

version コマンドを実行すると、ローカル・ホストで稼働している SnapManager のバージョンを確認できます。

## 構文

```
smo version
\[-quiet \|-verbose\]
```

## パラメータ

- \* - Quiet \*

コンソールにエラーメッセージのみを表示します。デフォルトでは、エラーおよび警告メッセージが表示されます。

- \* -verbose \*

各プロファイルのビルドの日付と内容を表示します。エラー、警告、および情報メッセージもコンソール

に表示されます。

## **version** コマンドの例

次の例は、SnapManager のバージョンを表示します。

```
smo version  
SnapManager for Oracle Version: 3.3.1
```

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。